

2020年3月期決算説明および 中期経営戦略の方向性について

2020年5月28日

 日立建機株式会社

執行役 社長兼 CEO

平野 耕太郎

執行役 営業本部長

先崎 正文

執行役 財務本部長 兼CFO

塩嶋 慶一郎


70th
Anniversary

- **コロナ対策本部を設置し、グローバルに対策を推進**

3月初旬、日立建機本社にグループ横断のコロナ対策本部を設置してBCPの観点から情報収集と方針策定、感染防止対策を推進中

- **安全・健康を第一に考え、社内外の感染拡大を防止**

お客さま、パートナー、当社グループの従業員および家族をはじめとするすべてのステークホルダーの皆さまの安全・健康を最優先事項とする

- **テレワークと国内生産拠点を中心に生産活動を継続**

間接員の在宅勤務・テレワークを徹底し、同時に世界各地のお客さまの要望に応えるべく、国内の主要生産拠点を中心に各地の拠点と連携し、生産活動を継続

● 新車需要への影響

COVID-19の影響が世界各地に広がり、一般建機の需要は全体で大きく減少、先行き不透明感がある。マイニング機械も世界的な景気不透明感から新規投資は抑制傾向となり、今後の新車需要は減少すると見ている。

● 当社販売・サービスの状況

各国政府の方針により一部地域では感染拡大防止の観点から稼働停止となっている現場がある一方、社会インフラを支える事業（Essential Business）としてお客さまは引き続き稼働している地域が多い。感染防止の対策に万全を期しながら、世界中のお客さまの要望に応じて販売・サービス活動を実施。遠隔で機械をモニタリングし故障を予兆する全自動システム「ConSite®」を通じて、お客さまの安定稼働をサポートするとともに、部品サービスを引き続き提供していく。

5月末現在でも今後の市況は不透明な状況にあることから、今年度からスタートする新中期経営計画の発表は見送り、今回は中期経営戦略の方向性を説明する

●収益力強化に向けた緊急対策実施

不急投資案件の計画の先送り、コスト管理強化、拠点の最適化・さらなる事業選別等を実施

●市場動向に即応した在庫の最適化の推進

復調の兆しなど市場動向を注視し、生産調整による在庫最適化に継続的に取り組む

●適時適切な情報開示

環境の変化に合わせて柔軟に方針を変更、業績に影響する事象があれば適時適切に公表し、ステークホルダーとの対話を継続する

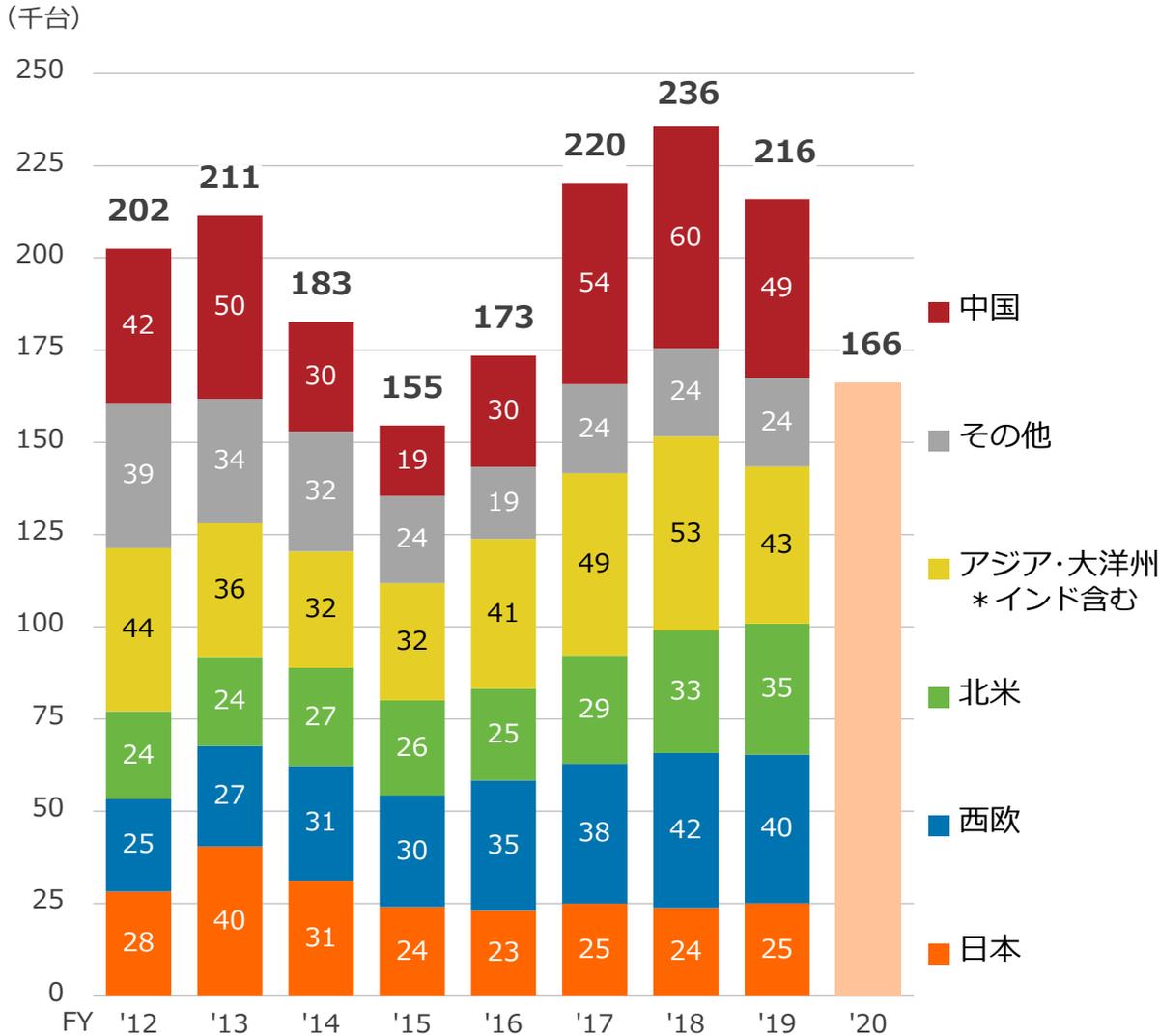
地域別市場環境と見通しについて

執行役 営業本部長

先崎 正文

新興国比率：19年度 53%（前年比-5%）

※新興国：中国、アジア・大洋州、その他



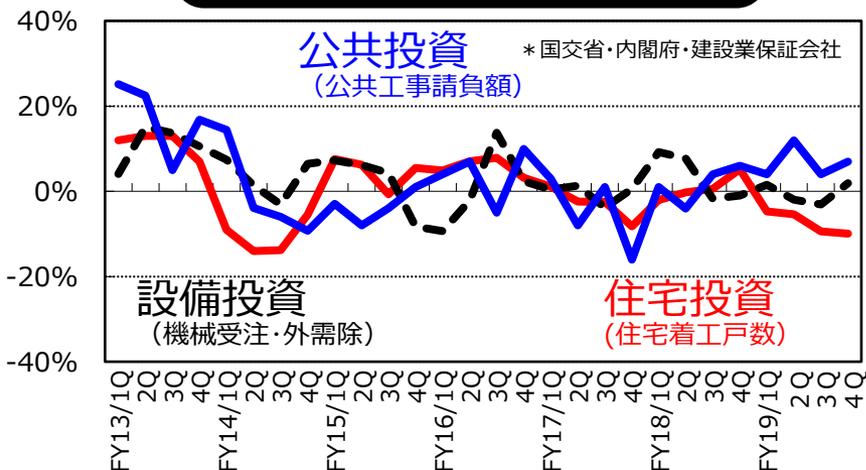
地域別需要対前年増減

※当社推定 中国国産メーカー含まず
※複写・転用はご遠慮下さい

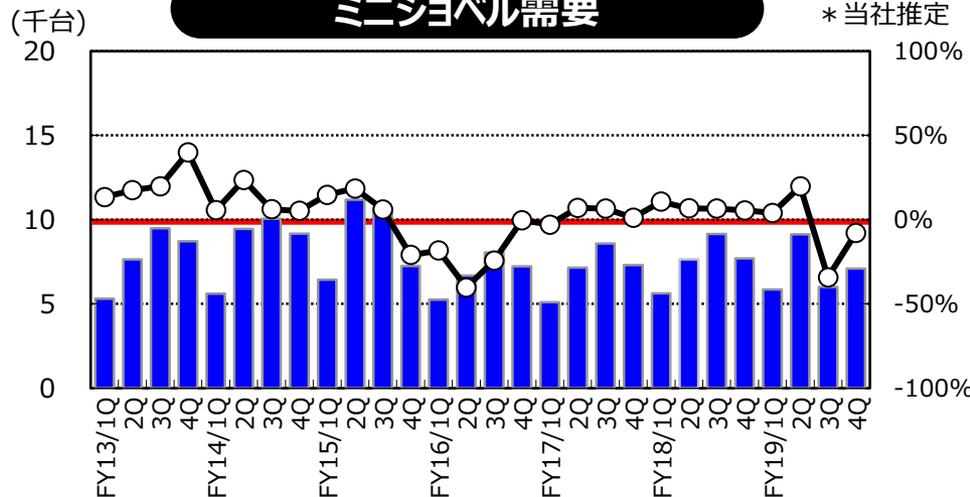
| | '18 | '19 | '20 |
|---------|------|------|------|
| 合計 | +7% | -8% | -23% |
| 中国 | +11% | -19% | |
| ロシア・CIS | +31% | -1% | |
| 東欧 | | | |
| アフリカ | -4% | -17% | |
| 中東 | -45% | +9% | |
| 中南米 | +5% | +10% | |
| その他 | -1% | +0% | |
| インド | +14% | -18% | |
| インドネシア | +13% | -26% | |
| 他 | -3% | -17% | |
| アジア・大洋州 | +6% | -19% | |
| 北米 | +13% | +6% | |
| 西欧 | +11% | -4% | |
| 日本 | -5% | +5% | |

- 住宅投資は減少だが、公共投資は増加、設備投資は前年同期並みで推移
- 油圧は前年並み、ミニ・WL需要は減少(前年同期比 油圧±0%、ミニ8%減、WL8%減)

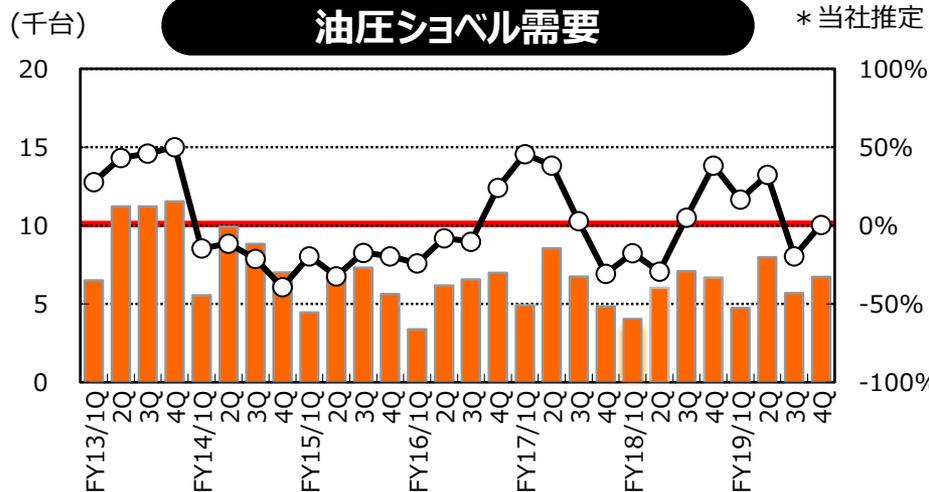
住宅・設備・公共投資 (前年同期比)



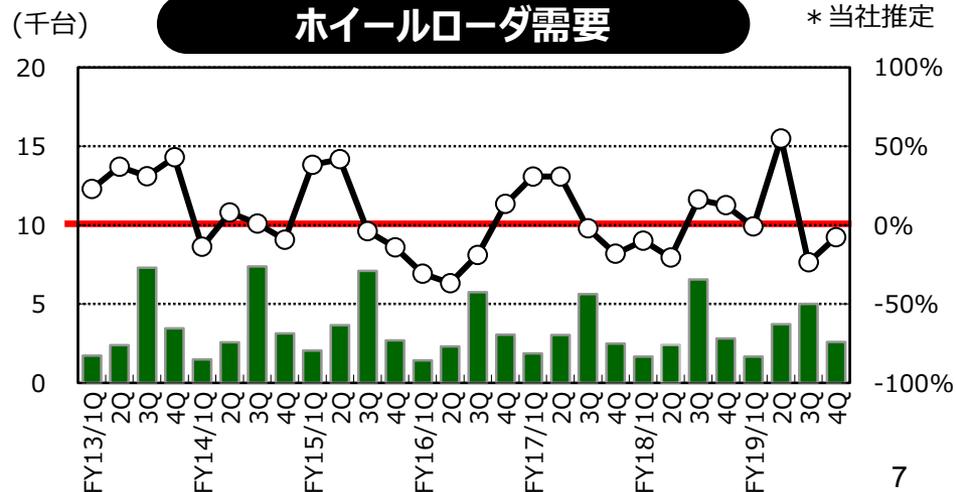
ミニショベル需要



油圧ショベル需要



ホイールローダ需要

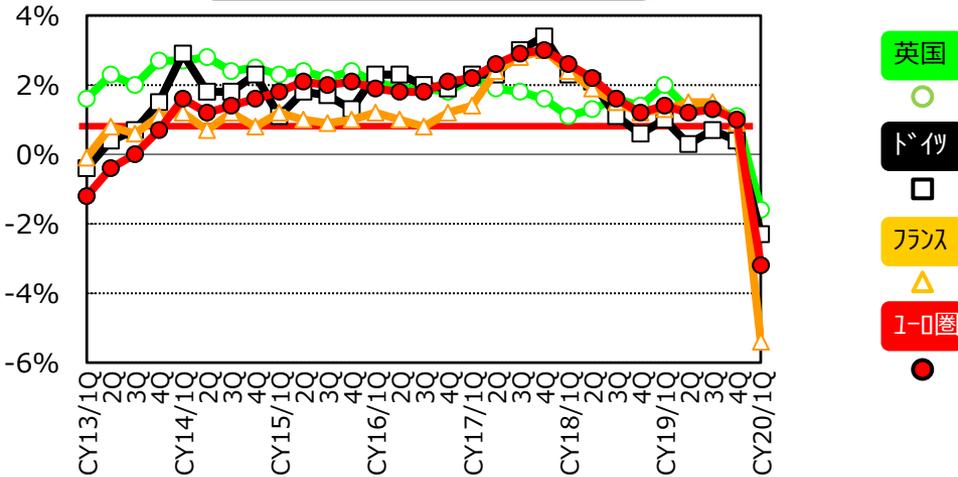


■ ユーロ圏全体のGDP成長率は減少

■ 油圧需要は減少、ミニ・WL需要は微減 (前年同期比 油圧18%減、ミニ3%減、WL2%減)

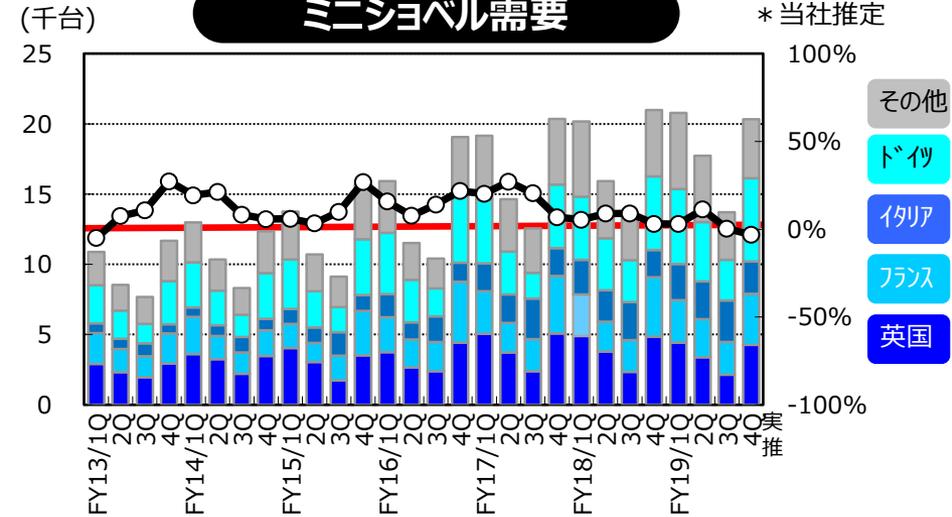
主要国GDP (前年同期比)

* Source: Eurostat



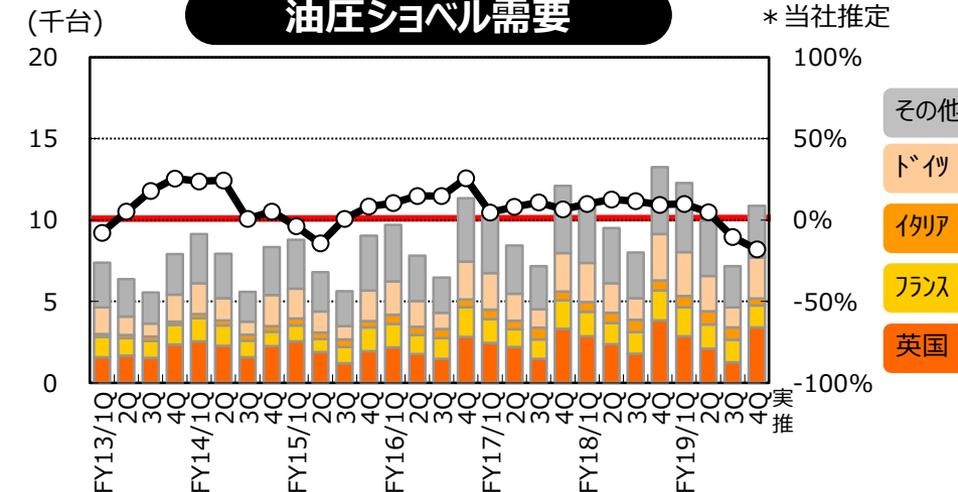
ミニショベル需要

* 当社推定



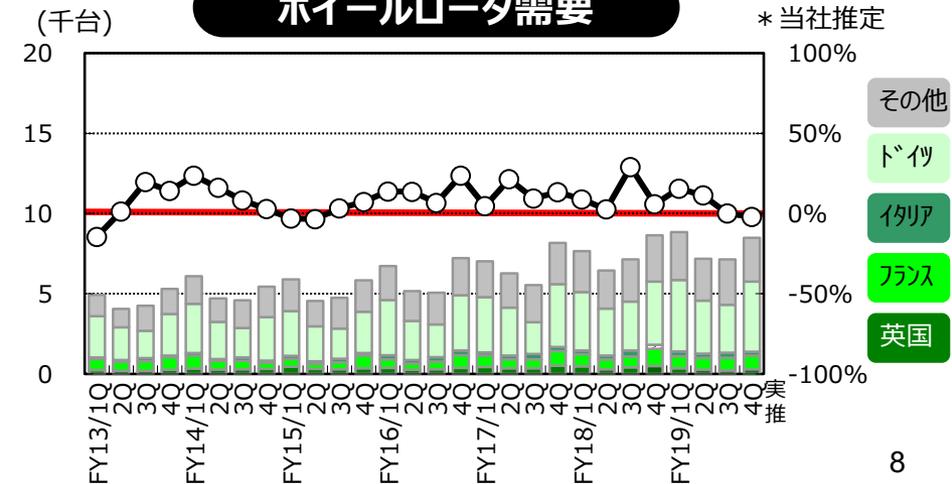
油圧ショベル需要

* 当社推定



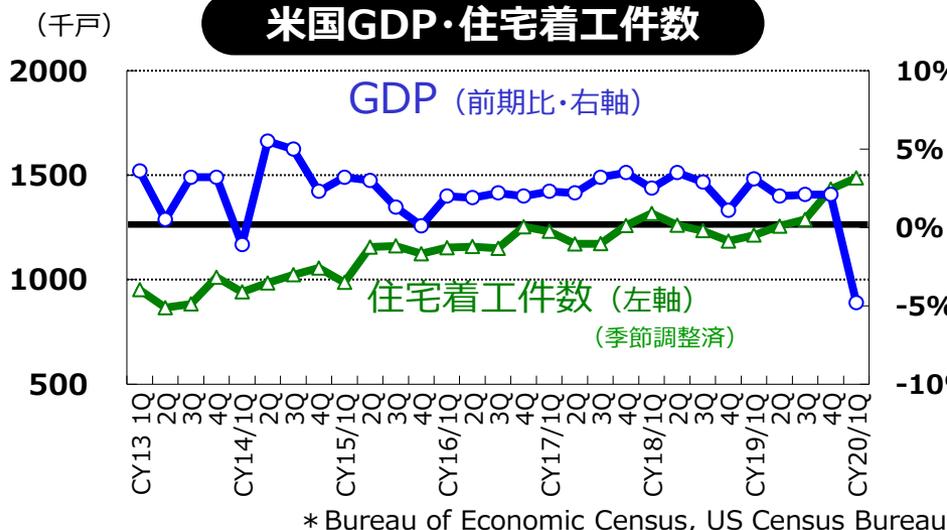
ホイールローダ需要

* 当社推定

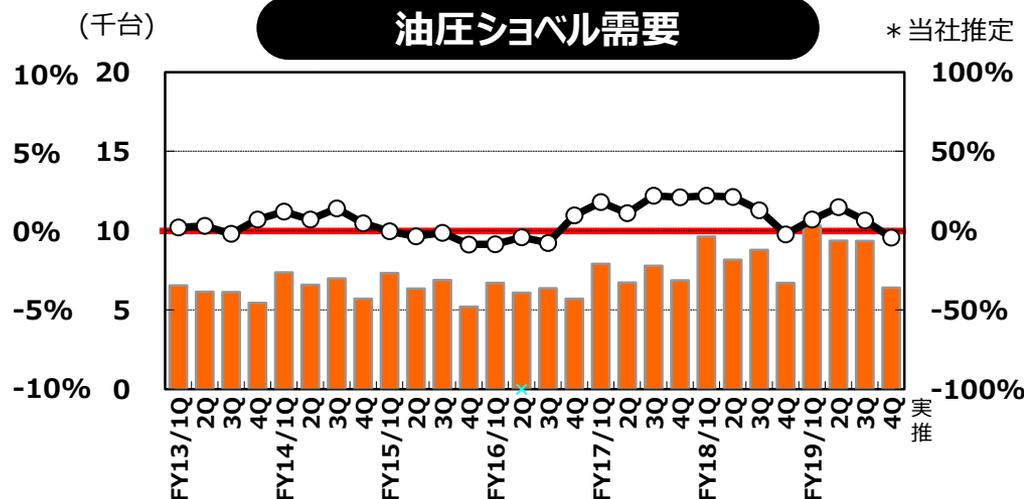


- 米国GDP成長率は減少、住宅着工件数は増加継続、建設投資は一般住宅の増加継続
- 油圧需要は微減、ミニ需要は微増 (前年同期比 油圧4%減、ミニ2%増)

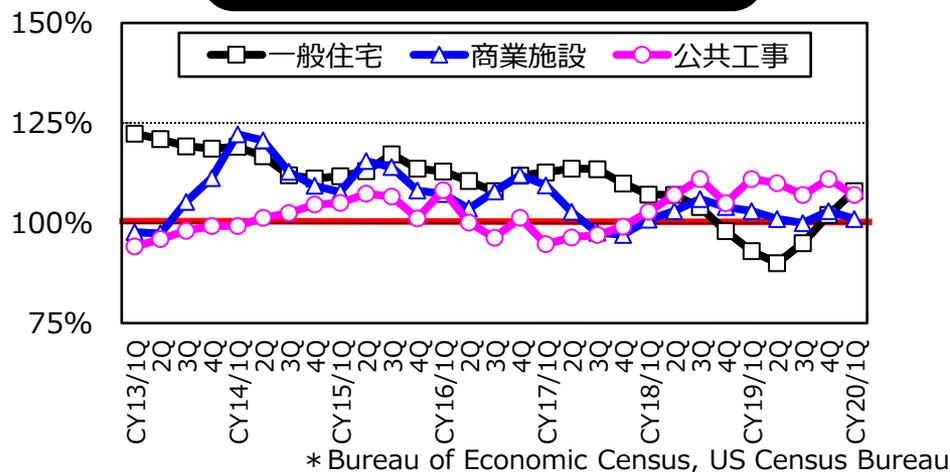
米国GDP・住宅着工件数



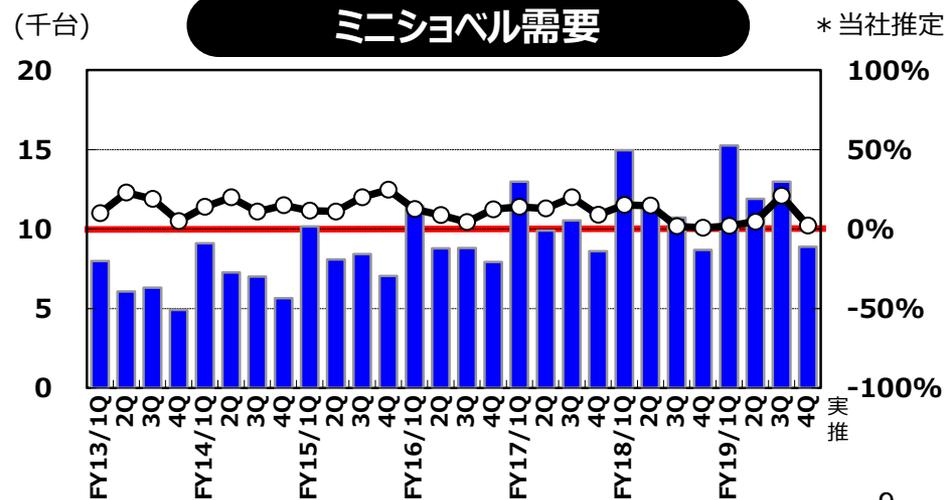
油圧ショベル需要



米国建設投資 (前年同期比)



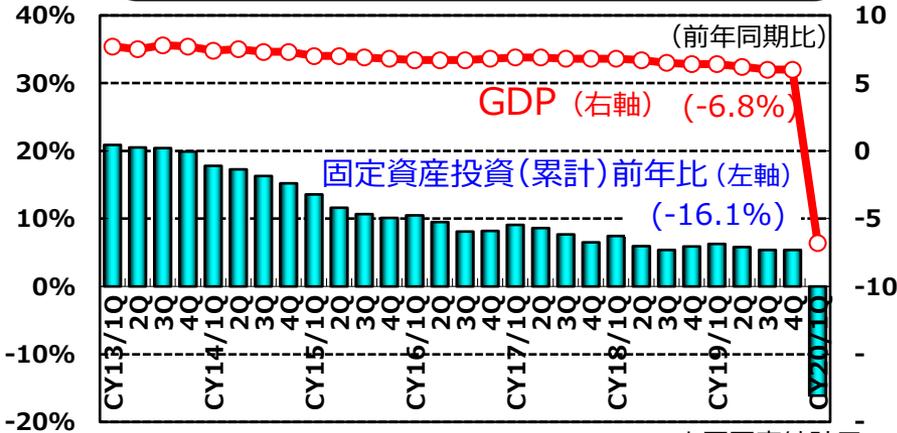
ミニショベル需要



- GDP成長率は-6.8%
- 油圧需要減 (前年同期比31%減, 外資のみ)

GDP・固定資産投資

(%)

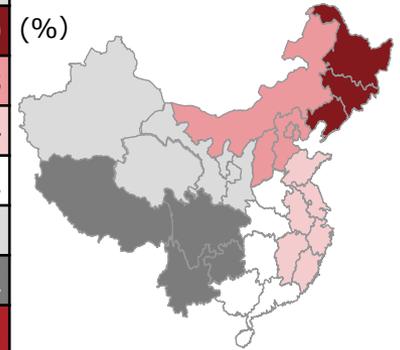


* 中国国家统计局

地域別油圧ショベル四半期別前年比

* 外資のみ
* 当社推定

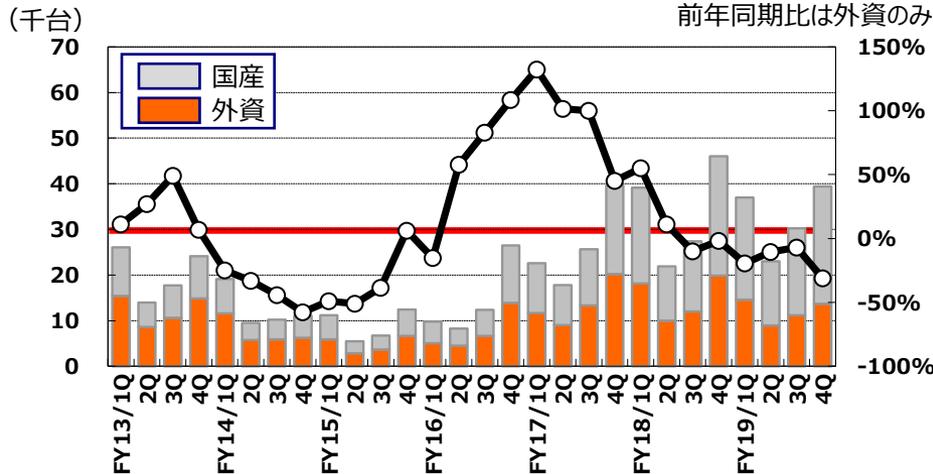
| FY19 | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
|------|-----|-----|-----|-----|
| 東北 | -19 | -3 | +65 | +9 |
| 華北 | -6 | -30 | -21 | -48 |
| 華東 | -22 | -5 | -1 | -24 |
| 華中南 | -12 | +2 | -8 | -32 |
| 西北 | -6 | -17 | +7 | -41 |
| 西南 | -37 | -21 | -16 | -32 |
| 中国全体 | -19 | -10 | -7 | -31 |



油圧ショベル需要

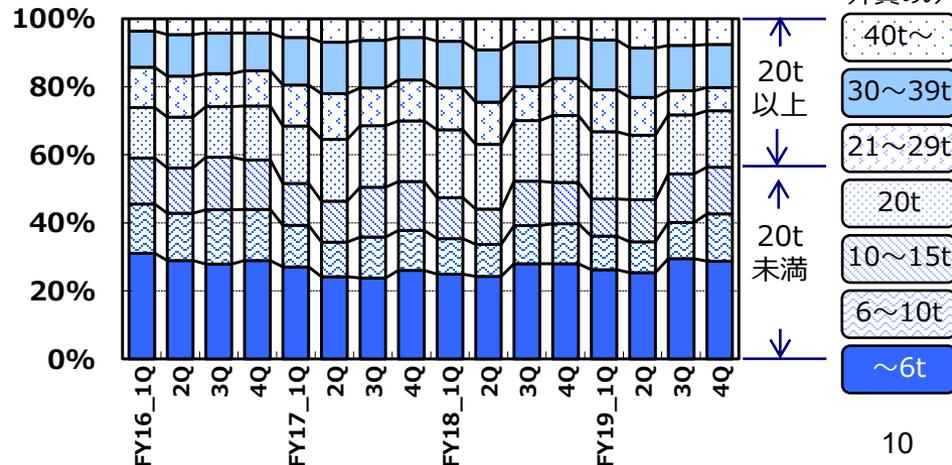
* 当社推定

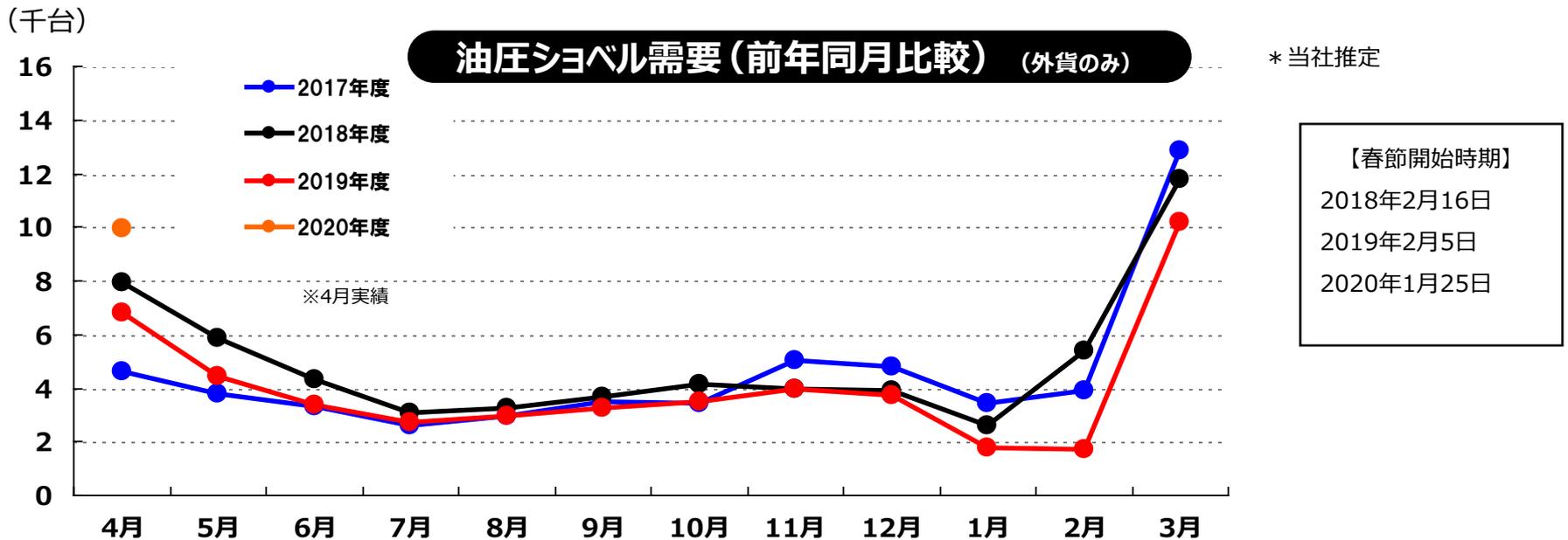
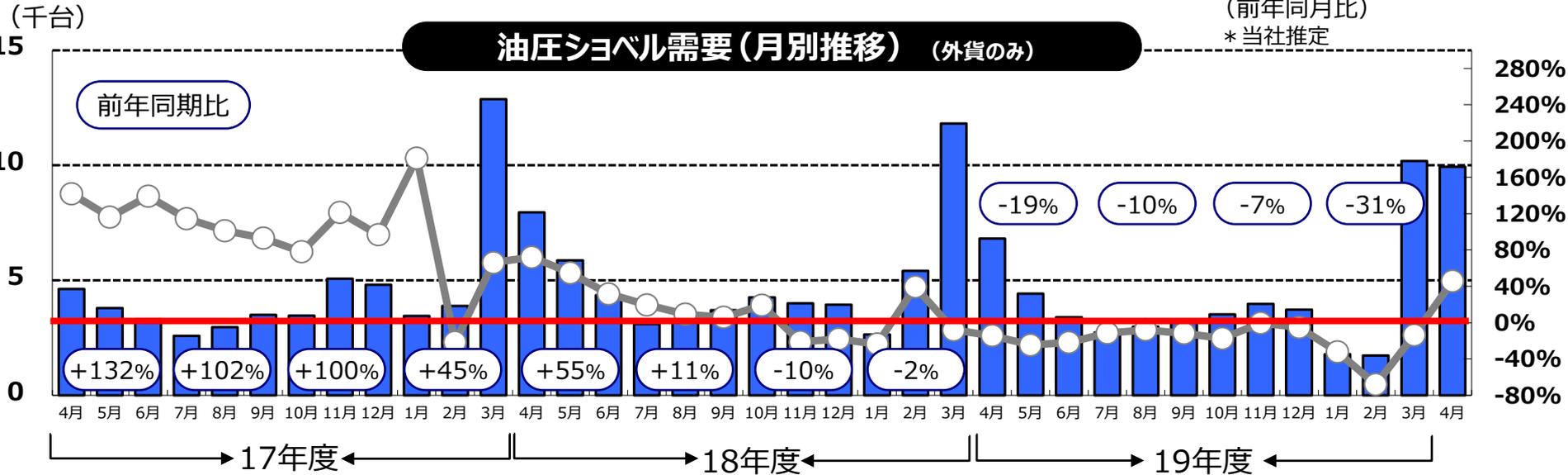
前年同期比は外資のみ



ミニ・油圧ショベル クラス別需要構成比

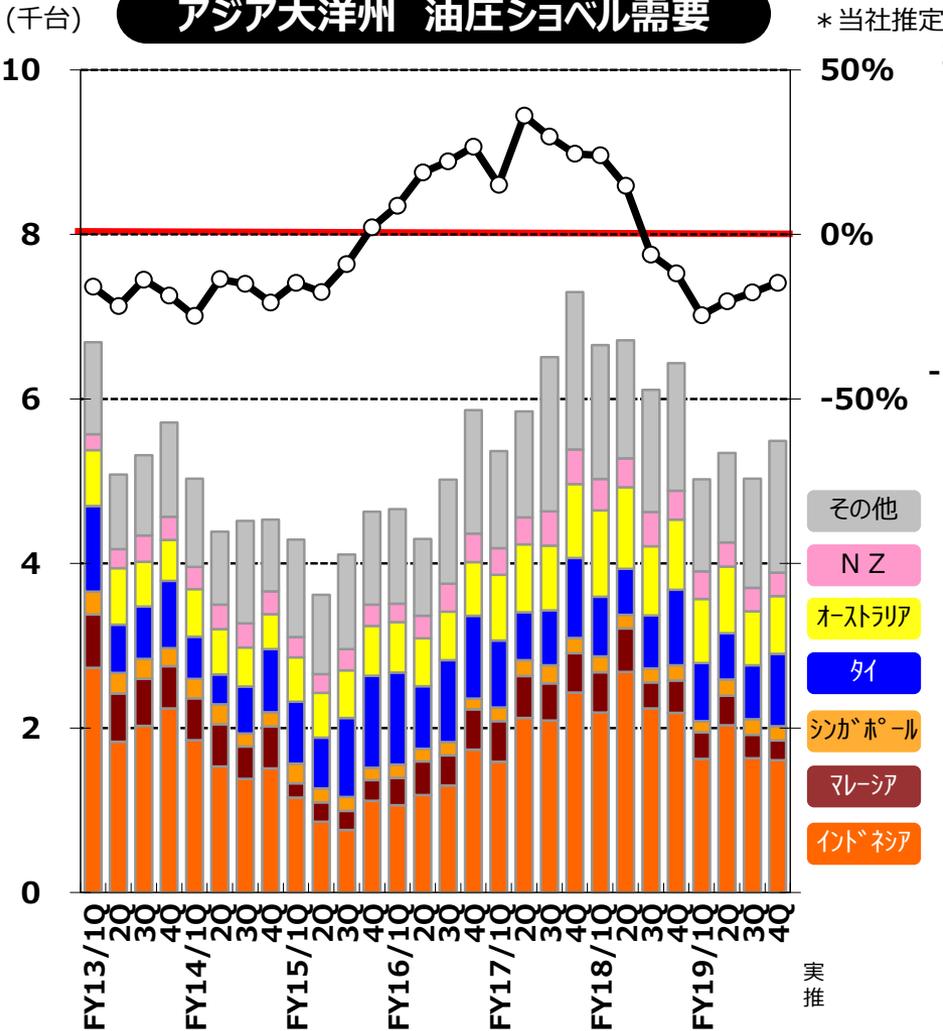
* 当社推定
外資のみ



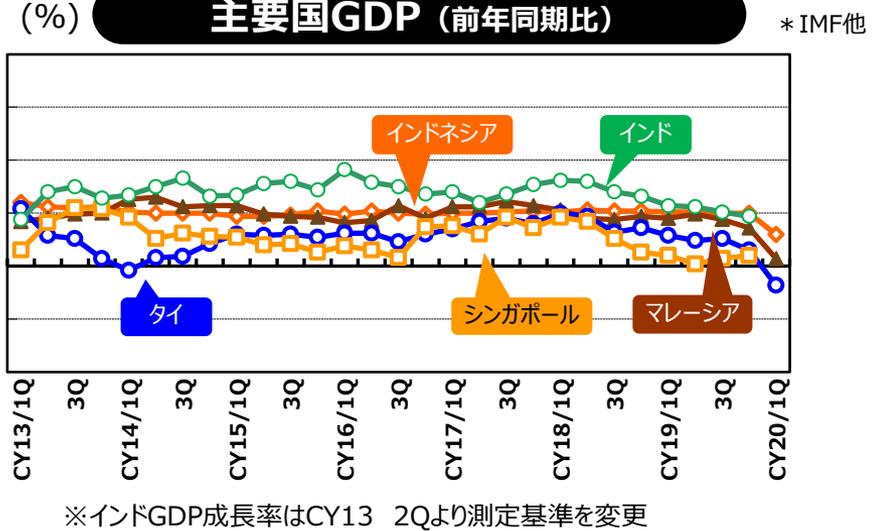


- アジア大洋州の油圧需要は全体では前年同期比15%減
- インドの油圧需要は前年同期比23%減

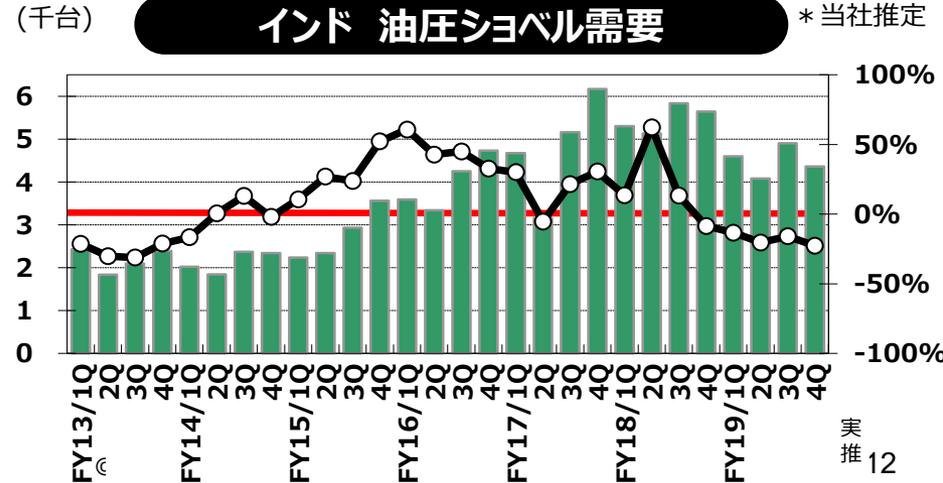
アジア大洋州 油圧ショベル需要



主要国GDP (前年同期比)

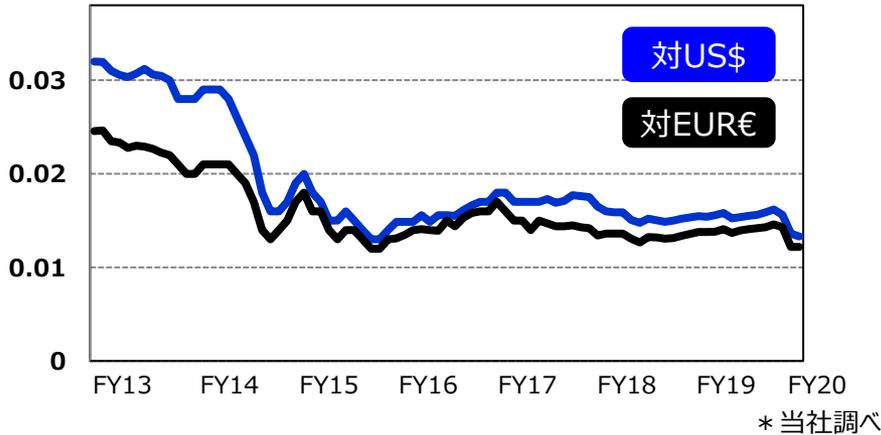


インド 油圧ショベル需要

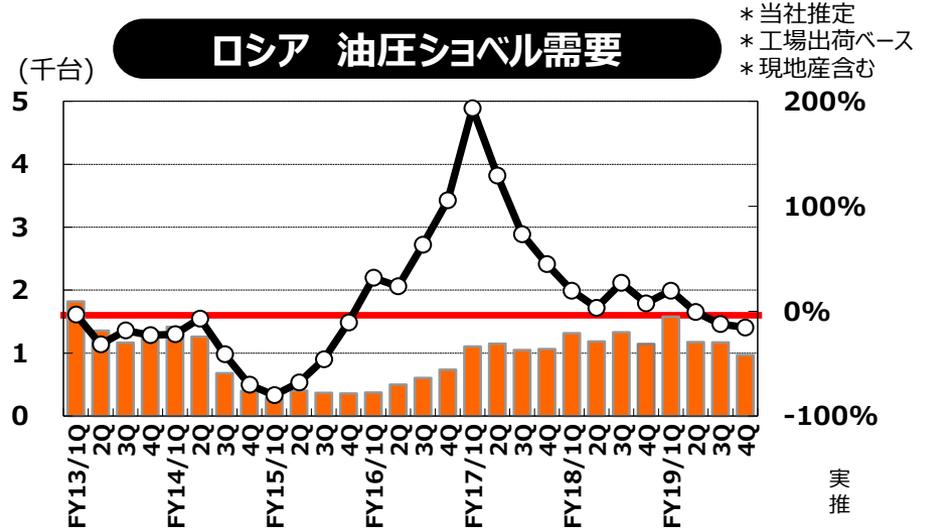


- ロシアの油圧需要は前年同期比16%減
- 中東の油圧需要は増加に転じている

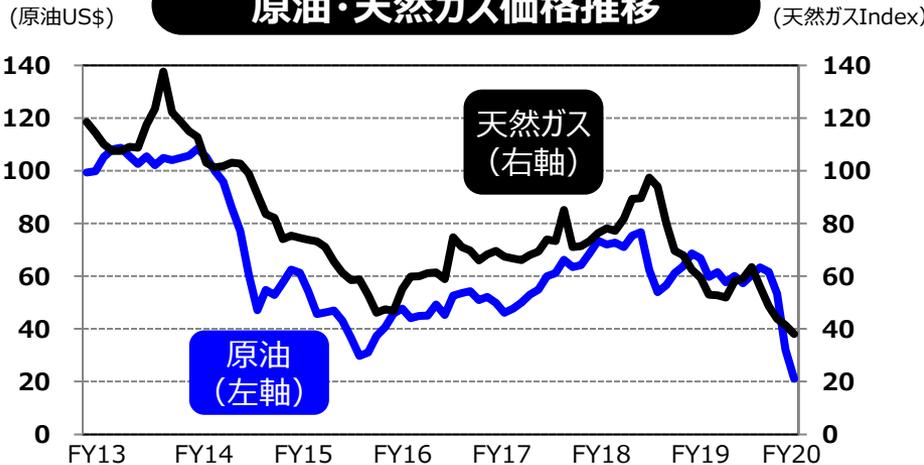
ルーブル為替推移



ロシア 油圧ショベル需要



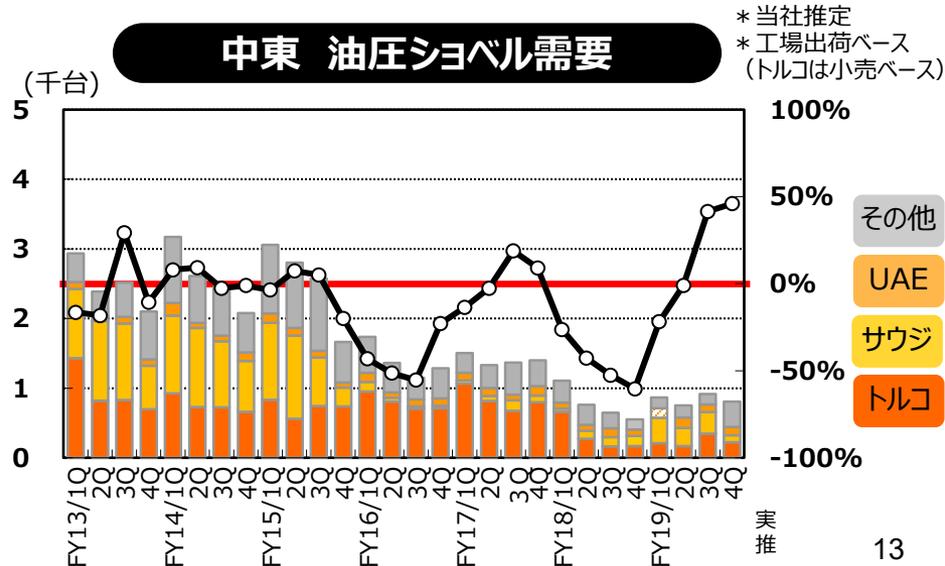
原油・天然ガス価格推移



* 世界銀行ホームページより当社作成

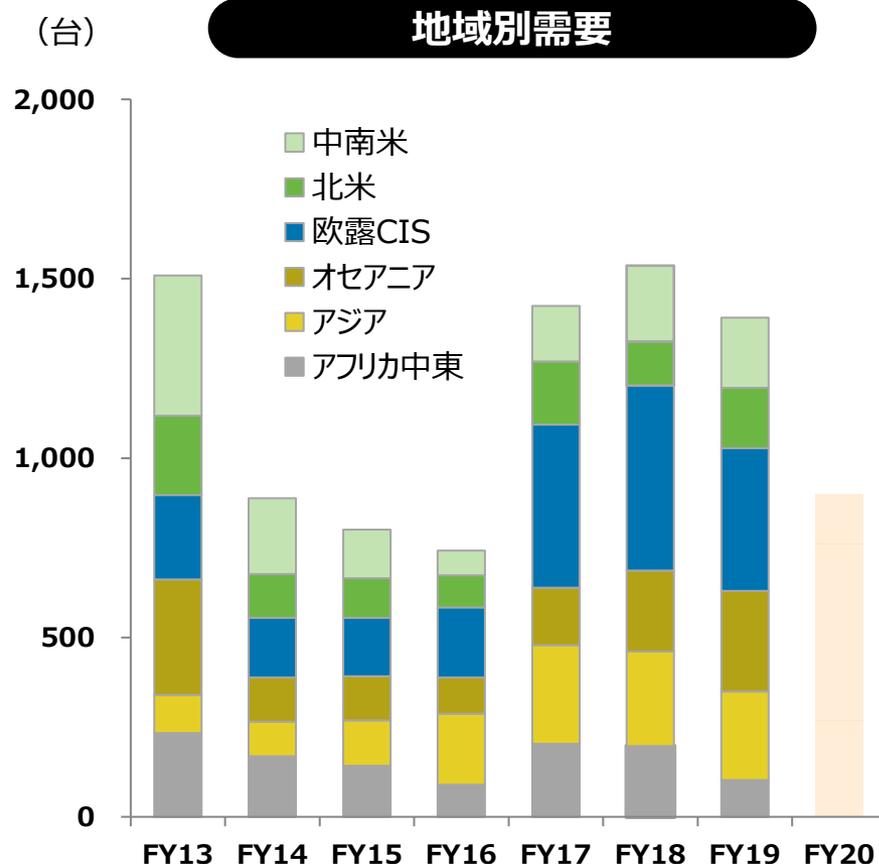
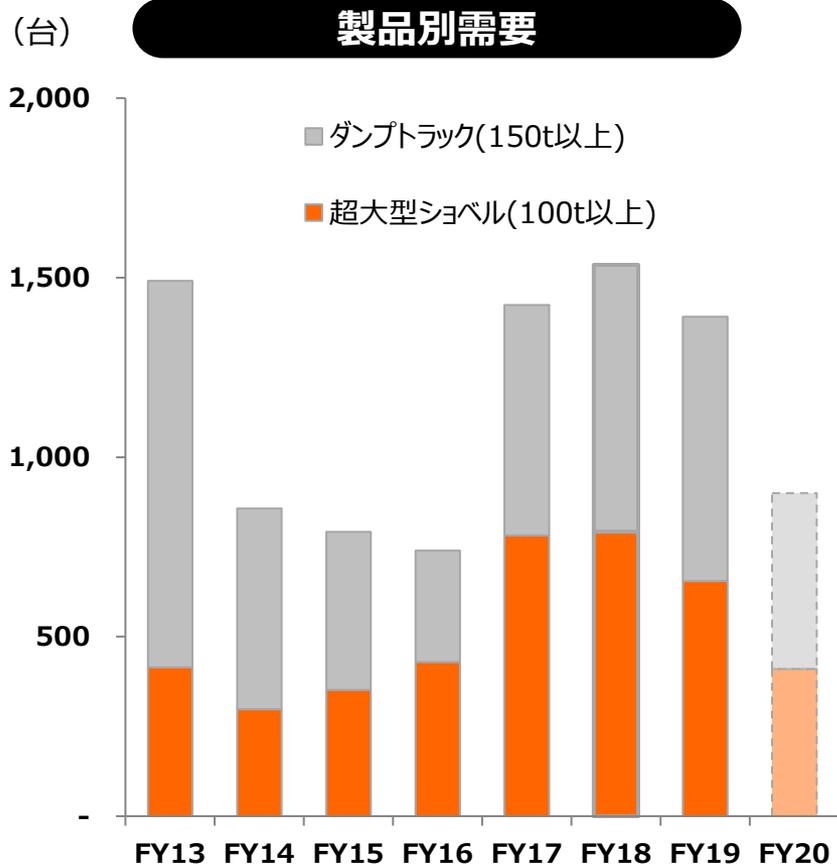
* 天然ガスIndex : 2010年=100

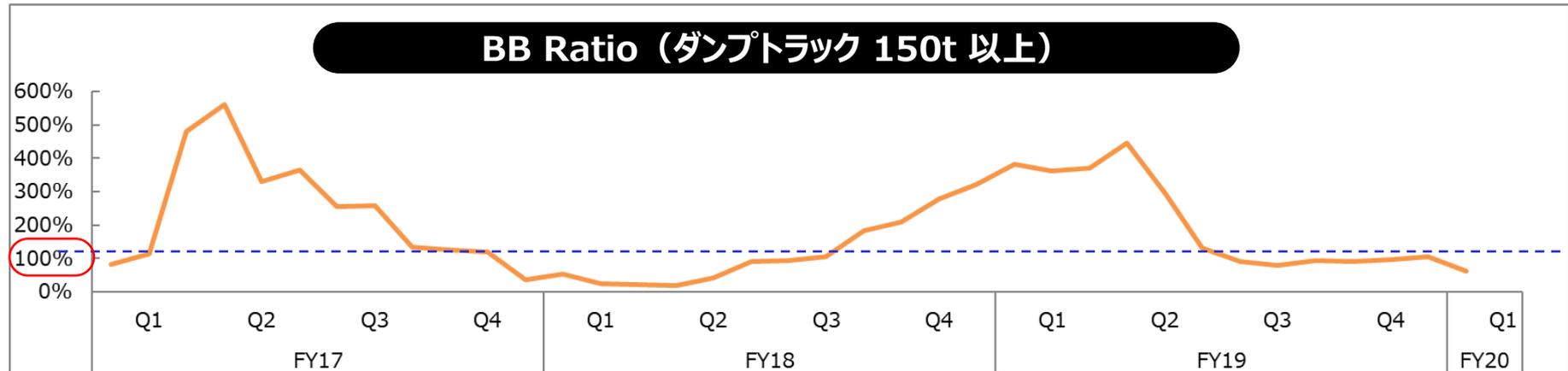
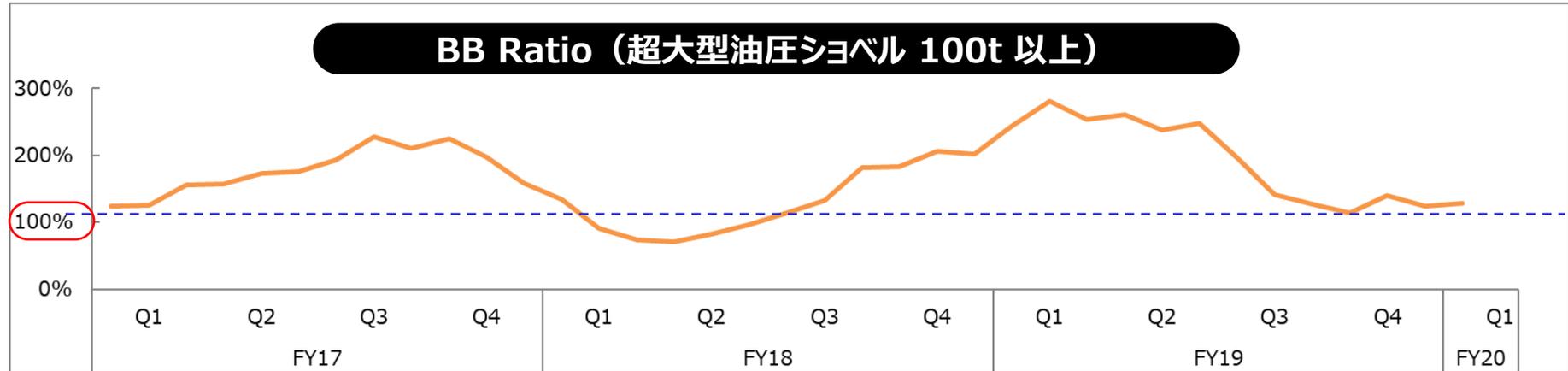
中東 油圧ショベル需要



■ 19年度マイニング需要は資源価格下落による影響で前年比10%減少

超大型油圧ショベル(100t以上)、ダンプトラック(150t以上)





※Book-to-Bill(BB)Ratio = Booking(受注額)/ Billing(出荷額)

当社単独の受注・出荷額の6ヶ月平均

| 地域 | 市場の動向 |
|-------|---|
| 日本 | 5月25日に緊急事態宣言解除も、今後の景気不透明感から先行き懸念あり |
| 西欧 | 各国規制は緩和傾向も、今後の景気不透明感から先行き懸念あり |
| 中国 | 需要は小型機から回復し通常的环境に戻りつつある 春節明け商戦はFY20へ一部後ろ倒し、全人代での追加施策等に期待 |
| 北米 | 各国規制は緩和傾向も、今後の景気不透明感から先行き懸念あり |
| アジア | 各国規制は緩和傾向も、今後の景気不透明感から先行き懸念あり |
| インド | 今後の景気不透明感から先行き懸念あるものの、モディ政権の経済対策により回復の見込み |
| オセアニア | マイニングはEssential Businessでコロナ影響少なく、一般建機も徐々に回復の見込み |

| 地域 | 拠点名 | 所在地 | 状況 | 生産再開時期 |
|-------------|--------------------------|--------|-----|----------|
| 日本 | 日立建機、日立建機ティエラ他 (全7拠点) | 茨城県など | 稼働中 | 継続稼働中 |
| 欧州 | 日立建機ヨーロッパ | オランダ | 稼働中 | 継続稼働中 |
| 中国 | 日立建機中国 | 安徽省 | 稼働中 | 3月半ば稼働再開 |
| アジア・ 太平洋 | タタ日立コンストラクション マシナリー | インド | 稼働中 | 5月初め稼働再開 |
| | 日立建機インドネシア | インドネシア | 稼働中 | 継続稼働中 |
| ロシア・CIS | 日立建機ユーラシア | ロシア | 稼働中 | 4月上旬稼働再開 |

※各拠点は、状況に応じて随時生産調整中（詳細はホームページで更新中）

トピック： COVID-19拡大に伴う支援・対策（1）

- 中国「上海市慈善基金会」に100万元（約1,500万円）を寄付
- 生産拠点でも消毒や三密回避、飛沫防止等を実施し、生産を継続
- 日立建機（ヨーロッパ）で健康と安全を呼びかける「#StaySafe」動画を公開
- 日本経済団体連合会を通じ、厚生労働省に医療防護具を提供
（N95マスク:約10,700枚、サージカルマスク:約20,800枚、ゴーグルほか防護具など）



日立建機（上海）との連携



SNSを通じて呼びかけ

日立建機(上海)がSNSの生放送番組で 中国市場向け土木専用機ZX60C-5Aの販促活動を実施

- 放送日：2020年5月22日 12：30～13：30（中国時間）
- 放送チャンネル（SNS）：DOU YIN, WEIZAN
- 反響：日立建機公式DOU YIN いいね！数 約1,7万件
WEIZAN入場回数 約4万回、コメント数 3,800件
今後は営業・代理店でフォローアップ予定



SNS生放送撮影の様子



実機を使い製品を紹介

トピック：ホワイトハイブンの鉱山でAHS稼働開始

HITACHI

Reliable solutions

- 豪Whitehaven Coal社のモールスクリーク石炭鉱山で
AHS搭載のリジッドダンプトラック 6台が自律走行を開始
- 2020年6月中に、24時間365日年中無休の稼働をめざす



自律走行で稼働中のダンプトラック EH5000AC-3

トピック：プロ野球6球団の公式承認モデルを発売

HITACHI

Reliable solutions

- ・ インフラ整備などで社会に貢献する全国のお客さまを、地域に根差すプロ野球球団とともに応援したいという想いを込めて実現
- ・ 対象機種はミニショベルとミニホイールローダで、特別仕様デザインの製品を販売するのは当社として初の試み
- ・ 複数球団の同時コラボレーションは、建設機械業界で初めて



- ・ スマホによる土量計測サービスの機能を強化し、2つのラインアップに拡充



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



8 働きがいも
経済成長も



アドバンス版

- ・ 国土交通省の出来高算出要領に準拠
工事進捗に応じた請求が可能
- ・ 福井コンピュータのクラウドサービス「CIMPHONY Plus」と連携
3次元データでのリアルタイムな進捗管理を実現

スタンダード版

- ・ 専用機器や専門知識が不要で手軽に土量計測

トピック：業界初*1、建設機械のスマホ診断アプリを提供開始

- 建設機械の状態を診断するアプリ「ConSite® Health Check」を開発、20年3月より展開開始
- サービス員がスマホを用いて短時間で建設機械の稼働音・測定データから建設機械を診断し、状態を判定できるアプリは、建設機械業界で初*1

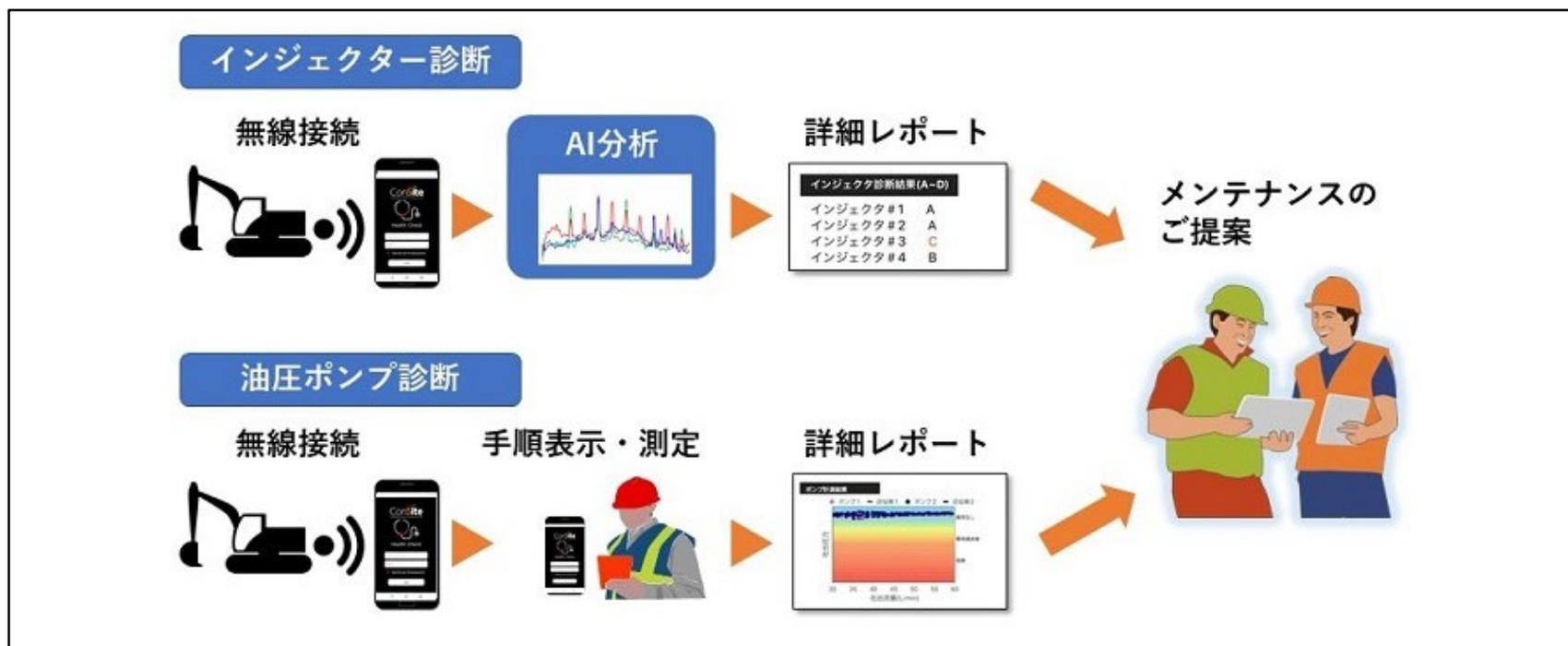
9 産業と技術革新の基盤をつくろう



8 働きがいも経済成長も



「ConSite® Health Check」イメージ図



*1：2020年3月23日時点 日立建機調べ

2020年3月期 決算説明

執行役 財務本部長 兼CFO

塩嶋 慶一郎

当第4四半期におけるCOVID-19の影響や為替円高影響により、連結売上収益は前年比10%減収、調整後営業利益は34%減益

(単位：億円)

| | | 19年度 実績 | | 18年度 実績 | | 前年比 増減率 |
|--------------------|-----------|------------|-------|---------------|--|------------|
| 売上収益 | <9,500> | 9,313 | | 10,337 | | △10% |
| 調整後営業利益 *1 | <860> | (8.2%) 766 | | (11.3%) 1,168 | | △34% |
| 営業利益 | <820> | (7.8%) 728 | | (9.9%) 1,023 | | △29% |
| 税引前当期利益 | <800> | (7.2%) 671 | | (9.9%) 1,027 | | △35% |
| 親会社株主に帰属する 当期利益 | <480> | (4.4%) 412 | | (6.6%) 685 | | △40% |
| E B I T *2 | <835> | (7.7%) 716 | | (10.2%) 1,056 | | △32% |
| 為 替 | アメリカドル | <106.4> | 108.7 | 111.0 | | △2.3 |
| | ユーロ | <117.9> | 120.8 | 127.9 | | △7.1 |
| | 中国元 | <15.3> | 15.7 | 16.6 | | △0.9 |
| | オーストラリアドル | <73.7> | 74.1 | 80.9 | | △6.8 |
| 1株当り配当金 *3 | <未定> | 60円 | | 100円 | | △40円 |

*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

*2 [EBIT]は、税引前当期利益から、受取利息の額を減算し、支払利息の額を加算して算出した指標です。(EBIT=Earnings before interests and taxes)

*3 [1株当り配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%程度、もしくはそれ以上をめざします。

北米を除き前年比減収、及び為替円高影響(△362億円)により前年比で減収

(単位：億円)

| | 19年度 実績 | | 18年度 実績 | | 前年比 | |
|----------|------------|------|------------|------|---------|------|
| | 金額 | 増減率 | 金額 | 増減率 | 金額 | 増減率 |
| 日本 | 2,056 | 22% | 2,061 | 20% | △ 5 | △0% |
| アジア | 859 | 9% | 885 | 9% | △ 26 | △3% |
| インド | 507 | 5% | 679 | 7% | △ 172 | △25% |
| オセアニア | 1,460 | 16% | 1,639 | 16% | △ 180 | △11% |
| 欧州 | 1,036 | 11% | 1,116 | 11% | △ 81 | △7% |
| 北米 | 1,734 | 19% | 1,687 | 16% | 48 | 3% |
| 中南米 | 129 | 1% | 171 | 2% | △ 42 | △24% |
| ロシアCIS | 326 | 4% | 344 | 3% | △ 18 | △5% |
| 中東 | 76 | 1% | 118 | 1% | △ 42 | △36% |
| アフリカ | 380 | 4% | 438 | 4% | △ 58 | △13% |
| 中国 | 750 | 8% | 1,199 | 12% | △ 449 | △37% |
| 合計 | 9,313 | 100% | 10,337 | 100% | △ 1,024 | △10% |
| 海外売上収益比率 | 78% | | 80% | | | |

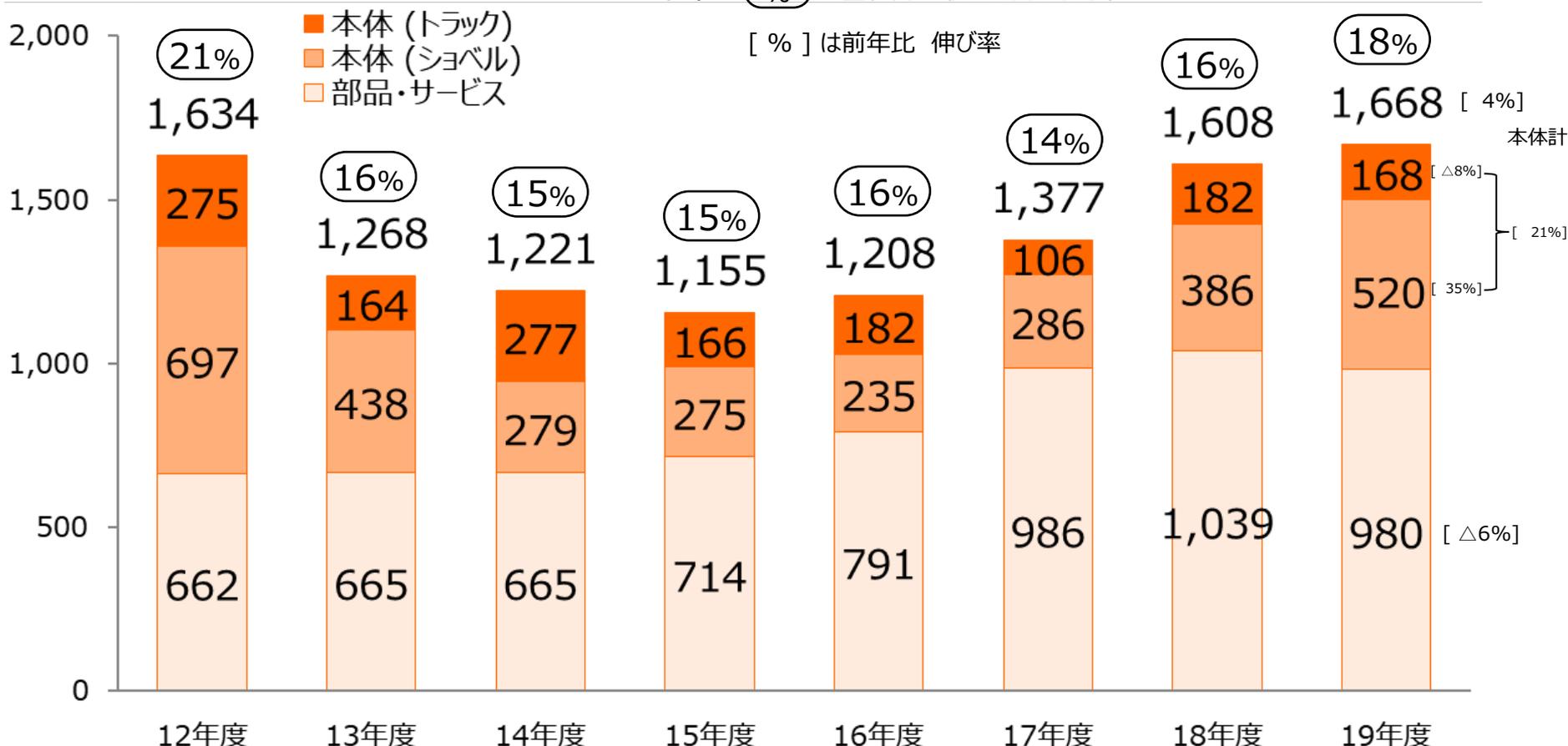
マイニング売上収益推移

■ 当年度の売上収益は、為替円高影響 (△106億円) あるも、前年比4%増の1,668億円
 ■ 特にマイニング機械本体売上収益は、前年比21%の大幅増加

(単位：億円)

(注) () は全社売上収益に占める比率

[%] は前年比 伸び率

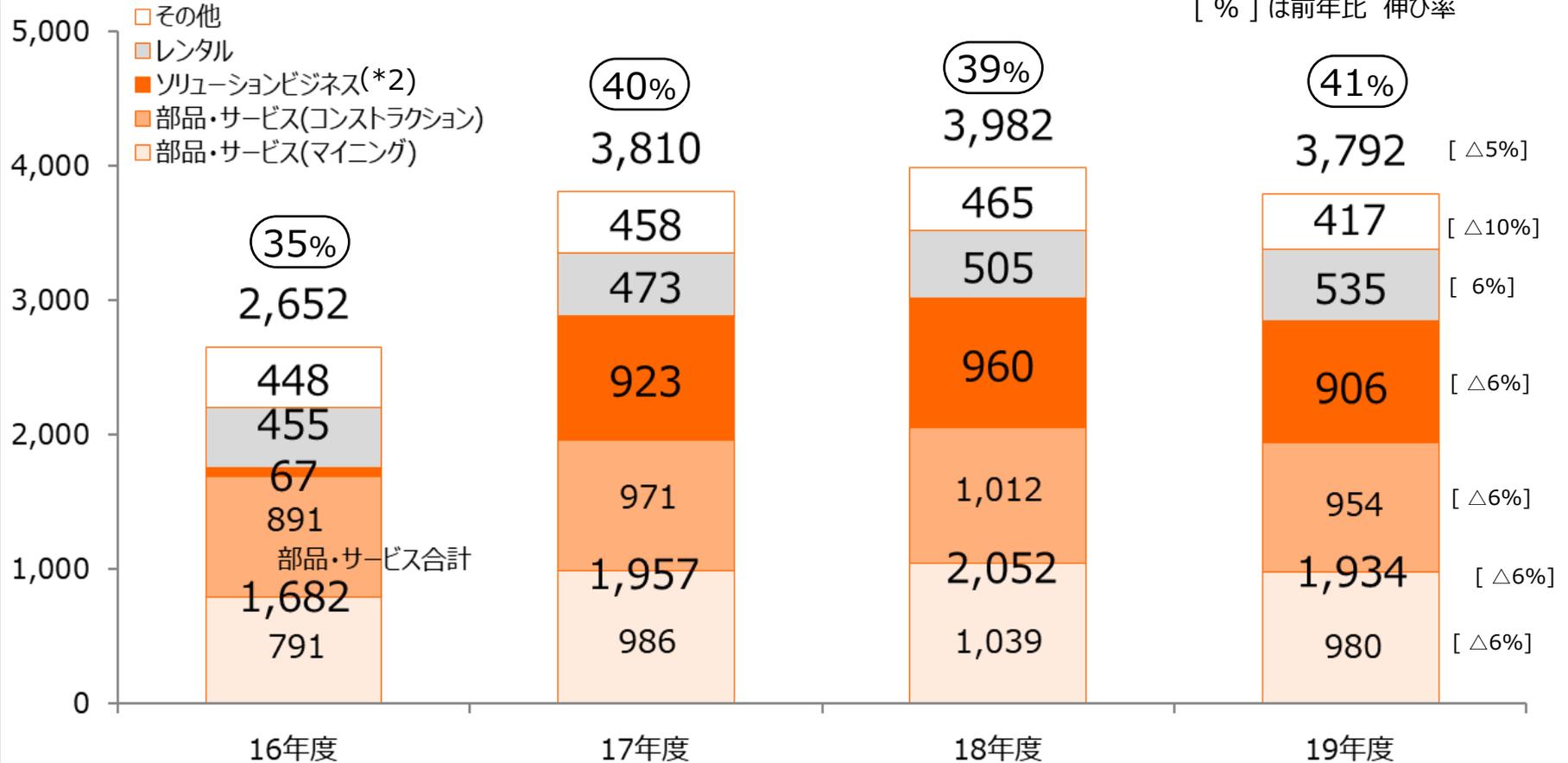


バリューチェーン*1 売上収益推移

当年度の売上収益は、COVID-19による部品サービス減、及び為替円高影響（△175億円）により、前年比5%減の3,792億円

(単位：億円)

(注) (○%) は全社売上収益に占める比率
[%] は前年比 伸び率



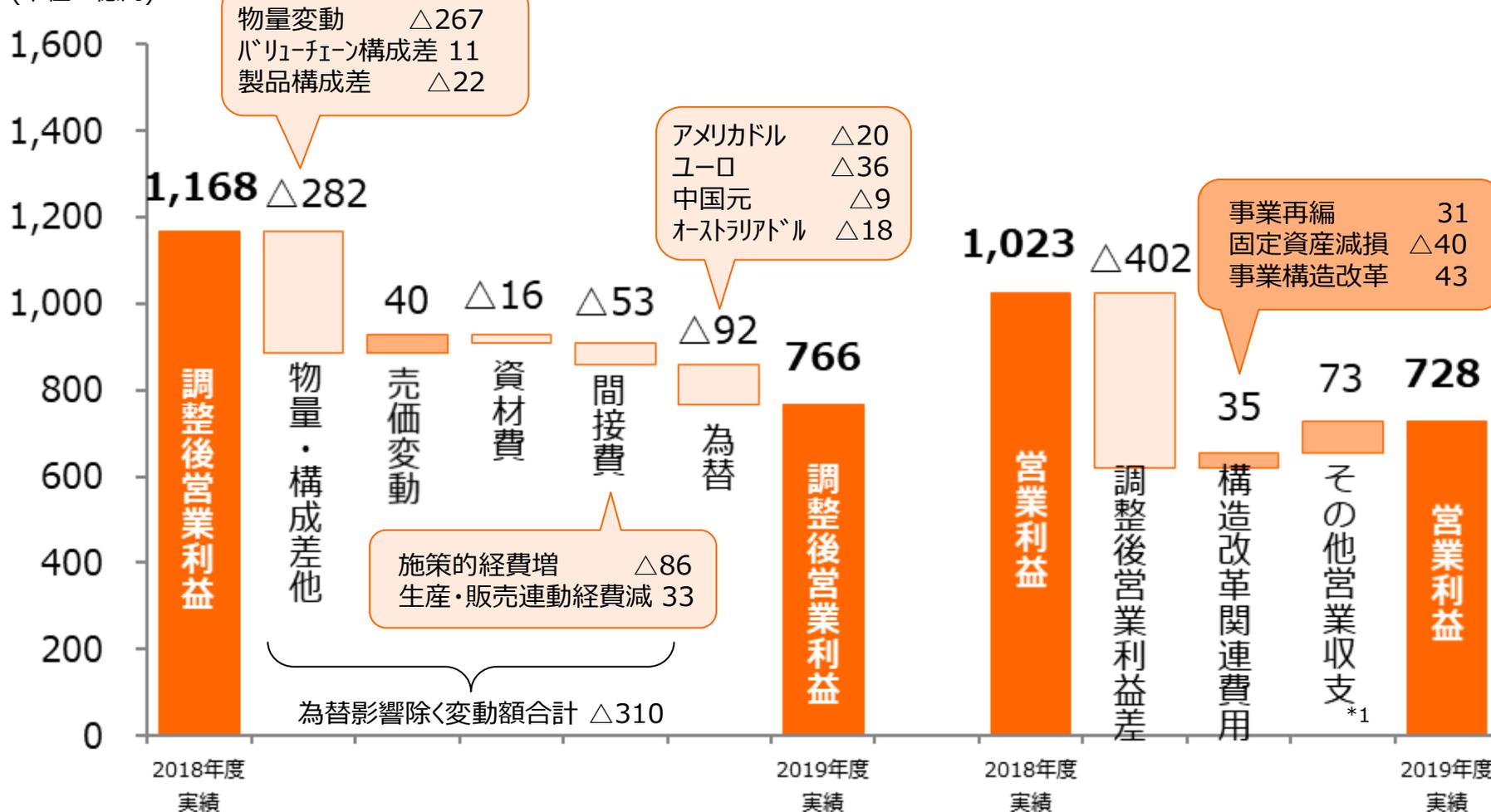
(*1) バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

(*2) ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

連結損益変動要因

調整後営業利益は、COVID-19影響含め、物量・構成差減、間接費の増加、資材費アップ及び為替円高影響等により、売価の改善はあるも前年比402億円の減益

(単位：億円)



*1 その他営業収支:2018年度実績には中国での過年度過払い増徴税の回収懸念についての処理額△88億円を含む

- 営業利益は728億円と前年比△294億円(29%)の減益
- 親会社株主に帰属する当期利益も412億円と前年比△274億円(40%)の減益

(単位：億円)

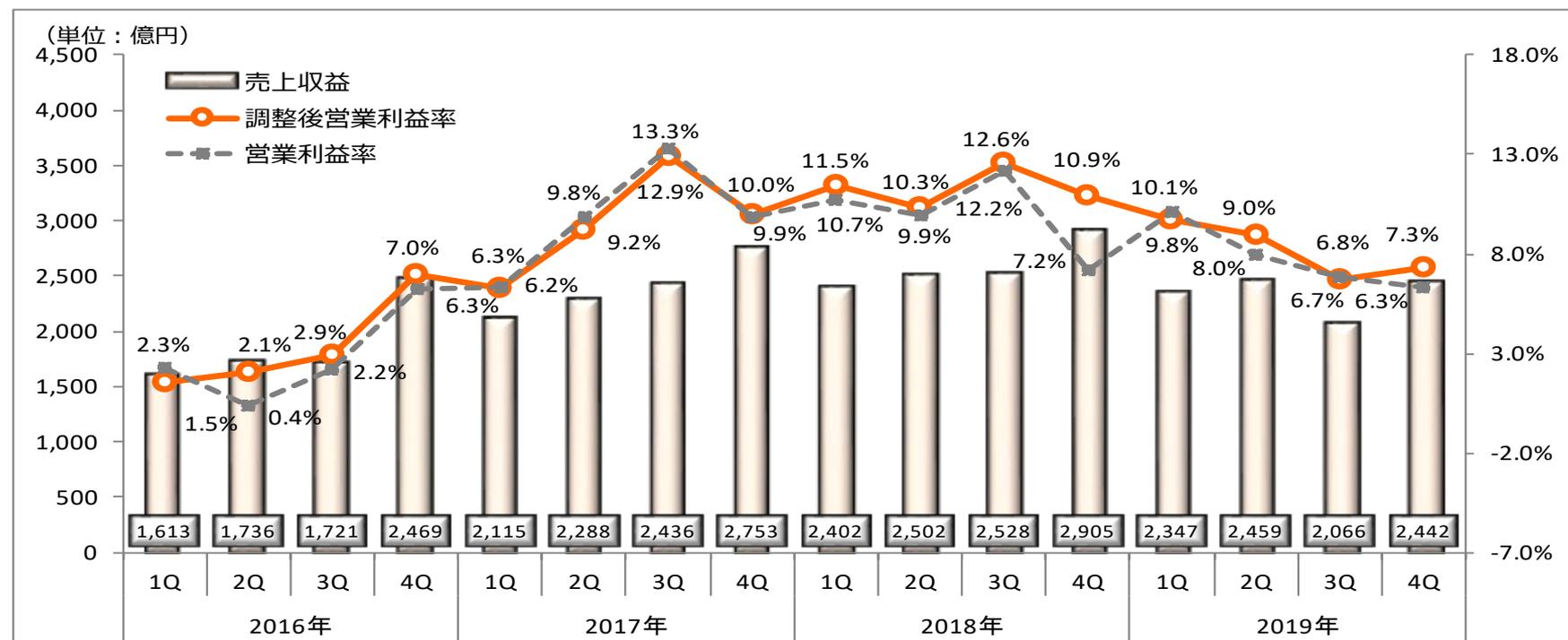
| | 19年度 | | 18年度 | | 前年比 | |
|--------------------|---------|-------|---------|-------|--------|------|
| | 実績 | | 実績 | | 金額 | 増減率 |
| 売上収益 | 9,313 | | 10,337 | | △1,024 | △10% |
| 売上原価 | (73.1%) | 6,806 | (71.2%) | 7,355 | △549 | △7% |
| 販売費・管理費 | (18.7%) | 1,741 | (17.5%) | 1,814 | △72 | △4% |
| 調整後営業利益 *1 | (8.2%) | 766 | (11.3%) | 1,168 | △402 | △34% |
| その他の収益及び費用 | | △38 | | △145 | 108 | △74% |
| 営業利益 | (7.8%) | 728 | (9.9%) | 1,023 | △294 | △29% |
| 金融収益及び費用 | | △84 | | △43 | △41 | 96% |
| 持分法投資損益 | | 27 | | 47 | △20 | △43% |
| 税引前当期利益 | (7.2%) | 671 | (9.9%) | 1,027 | △356 | △35% |
| 法人所得税費用 | | 223 | | 285 | △62 | △22% |
| 当期利益 | (4.8%) | 448 | (7.2%) | 742 | △294 | △40% |
| 親会社株主に帰属する 当期利益 | (4.4%) | 412 | (6.6%) | 685 | △274 | △40% |

*1 [調整後営業利益]は、連結損益計算書に表示している営業利益からその他の収益及びその他の費用を除いた日立グループ統一の利益指標です。

要約連結 四半期別売上収益・営業利益（率）

(単位:億円)

| | 2016年 | | | | 2017年 | | | | 2018年 | | | | 2019年 | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
| 売上収益 | 1,613 | 1,736 | 1,721 | 2,469 | 2,115 | 2,288 | 2,436 | 2,753 | 2,402 | 2,502 | 2,528 | 2,905 | 2,347 | 2,459 | 2,066 | 2,442 |
| 調整後営業利益 | 24 | 36 | 50 | 173 | 132 | 210 | 315 | 275 | 276 | 258 | 318 | 317 | 229 | 221 | 138 | 179 |
| 営業利益 | 37 | 7 | 38 | 155 | 134 | 225 | 324 | 271 | 257 | 248 | 308 | 210 | 237 | 196 | 141 | 155 |



| 四半期別 為替レート | 2016年 | | | | 2017年 | | | | 2018年 | | | | 2019年 | | | |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
| アメリカドル | 108.1 | 102.4 | 109.3 | 113.6 | 111.1 | 111.0 | 113.0 | 108.3 | 109.1 | 111.5 | 112.9 | 110.2 | 109.9 | 107.4 | 108.8 | 108.9 |
| ユーロ | 122.0 | 114.3 | 117.8 | 121.1 | 122.2 | 130.4 | 133.0 | 133.2 | 130.1 | 129.6 | 128.8 | 125.2 | 123.5 | 119.3 | 120.3 | 120.1 |
| 中国元 | 16.5 | 15.4 | 16.0 | 16.6 | 16.2 | 16.6 | 17.1 | 17.1 | 17.1 | 16.4 | 16.3 | 16.3 | 16.1 | 15.3 | 15.5 | 15.6 |
| オーストラリアドル | 80.6 | 77.6 | 81.9 | 86.2 | 83.4 | 87.6 | 86.8 | 85.3 | 82.6 | 81.5 | 81.1 | 78.5 | 76.9 | 73.6 | 74.3 | 71.8 |

要約連結財政状態計算書

当年度末は、営業債権や棚卸資産の圧縮による流動資産計△611億円により、国際会計基準(IFRS)16号の適用開始によるリース資産の増加影響415億円等あるも、総資産は前年度末より△177億円の圧縮

(単位：億円)

| | (A) 19年度 | (B) 18年度 | (A)-(B) 増減 |
|----------------|-------------|-------------|---------------|
| 現金及び現金同等物 | 622 | 673 | △52 |
| 営業債権 | 2,125 | 2,382 | △257 |
| 棚卸資産 | 3,012 | 3,248 | △236 |
| 流動資産計 | 6,128 | 6,739 | △611 |
| 非流動資産合計 | 5,548 | 5,114 | 434 |
| 資産の部合計 | 11,676 | 11,853 | △177 |
| 非流動を含めた営業債権 | 2,521 | 2,826 | △305 |
| 棚卸資産 内訳 | | | |
| 本体 | 762 | 893 | △131 |
| 部品 | 1,030 | 1,022 | 8 |
| その他 | 1,220 | 1,333 | △113 |
| 棚卸資産計 | 3,012 | 3,248 | △236 |
| 手持日数 (分母は売上収益) | | | (単位：日) |
| 営業債権 (非流動含む) | 99 | 100 | △1 |
| 棚卸資産 | 118 | 115 | 3 |
| 営業債務 | 43 | 57 | △14 |
| 正味運転資金 | 171 | 155 | 16 |

| | (C) 19年度 | (D) 18年度 | (C)-(D) 増減 |
|----------------|------------------|------------------|---------------|
| 営業債務及びその他債務合計 | 1,887 | 2,781 | △894 |
| 社債及び借入金 | 3,389 | 3,048 | 341 |
| 負債の部合計 | 6,425 | 6,426 | △1 |
| (親会社所有者帰属持分比率) | (40.6%) | (41.0%) | (△0.5%) |
| 資本の部合計 | 5,251 | 5,427 | △176 |
| 負債・資本の部合計 | 11,676 | 11,853 | △177 |
| | | | |
| 有利子負債計 | (29.0%) 3,389 | (25.7%) 3,048 | (3.3%) 341 |
| 現金及び現金同等物 | 622 | 673 | △52 |
| ネット有利子負債 | (23.7%) 2,768 | (20.0%) 2,375 | (3.7%) 393 |
| ネットD/Eレシオ | 0.58 | 0.49 | 0.10 |

営業キャッシュ・フローは、運転資本の改善により前年比484億円増の227億円のポジティブ

(単位：億円)

| | 19年度 実績 | | 18年度 実績 | | 前年比 増減額 | |
|-------------------|------------|-------|------------|--------|------------|-------|
| 当期利益 | | 448 | | 742 | | △ 294 |
| 減価償却費 | 909 | 461 | 1,111 | 370 | △ 202 | 92 |
| 売掛金及び受取手形の増減 | | 99 | | △ 262 | | 361 |
| 棚卸資産の増減 | △ 228 | 1 | △ 1,213 | △ 765 | 985 | 766 |
| 買掛金及び支払手形の増減 | | △ 328 | | △ 186 | | △ 142 |
| その他 | | △ 454 | | △ 155 | | △ 299 |
| 営業活動に関するキャッシュ・フロー | | 227 | | △ 257 | | 484 |
| 営業キャッシュ・フロー・マージン率 | | 2.4% | | △ 2.5% | | 4.9% |
| 投資活動に関するキャッシュ・フロー | | △ 347 | | △ 303 | | △ 44 |
| フリー・キャッシュ・フロー | | △ 121 | | △ 560 | | 440 |
| 財務活動に関するキャッシュ・フロー | | 110 | | 439 | | △ 329 |

要約連結損益計算書（予想）

20年度連結売上収益はCOVID-19影響による市況の不透明感や予想為替レートの円高影響
△166億円により17%減収、調整後営業利益は48%減収を見込む

(単位：億円)

| | 20年度 予想 | 19年度 実績 | 前年比 | |
|--------------------|------------|------------|---------|-------|
| | | | 金額 | 増減率 |
| 売上収益 | 7,700 | 9,313 | △ 1,613 | △ 17% |
| 調整後営業利益 | (5.2%) 400 | (8.2%) 766 | △ 366 | △ 48% |
| 営業利益 | (4.7%) 360 | (7.8%) 728 | △ 368 | △ 51% |
| 税引前当期利益 | (4.4%) 340 | (7.2%) 671 | △ 331 | △ 49% |
| 親会社株主に帰属する 当期利益 | (2.6%) 200 | (4.4%) 412 | △ 212 | △ 51% |
| EBIT | 376 | 716 | △ 340 | |

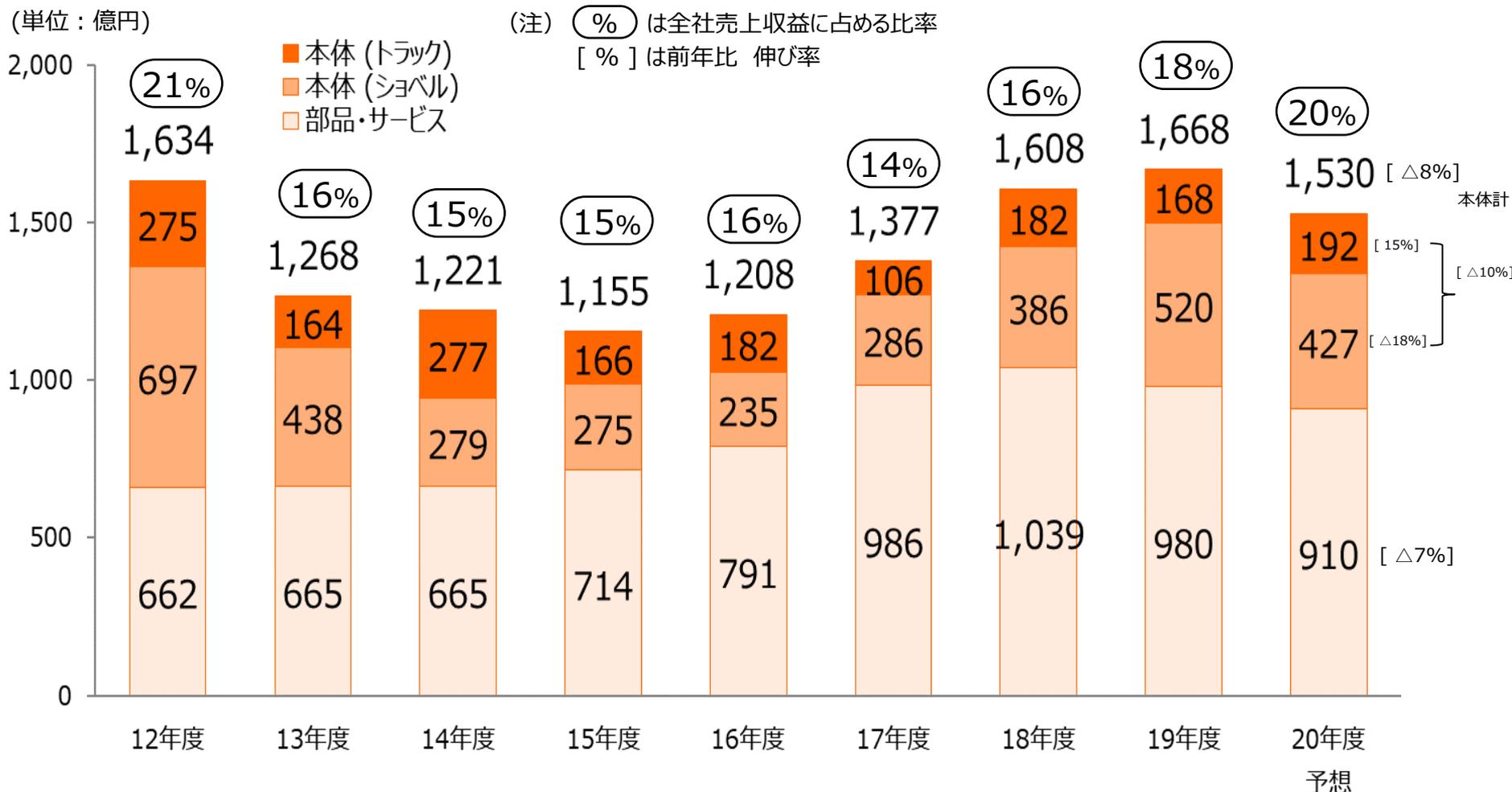
| 通貨 | 20年度 予想 | 19年度 実績 | 前年比 |
|-------------|------------|------------|-------|
| アメリカドル | 105.0 | 108.7 | △ 3.7 |
| ユーロ | 120.0 | 120.8 | △ 0.8 |
| 中国元 | 15.0 | 15.7 | △ 0.7 |
| オーストラリアドル | 72.0 | 74.1 | △ 2.1 |
| 1株当たり配当金 *1 | 未定 | 60円 | - |

為替感応度は
参考資料1を
ご参照ください

*1 [1株当たり配当金]は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の2回に分けて同一年度に2度実施する方針であり、連結配当性向30%程度、もしくはそれ以上をめざします。

マイニング売上収益推移（予想）

20年度の売上収益は、予想為替レートの円高影響もあり、前年比8%減収の1,530億円を見込む

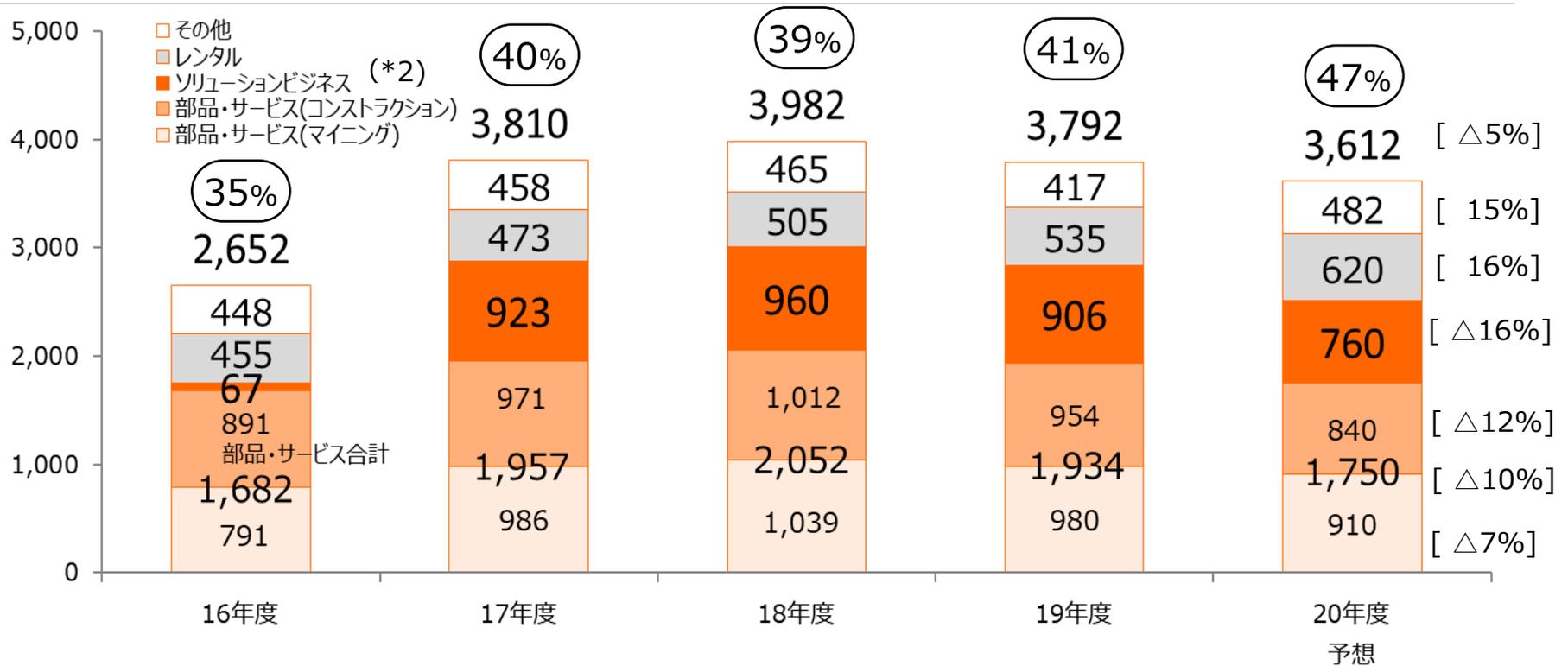


バリューチェーン*1 売上収益推移（予想）

20年度売上収益は、レンタル、中古車等の売上増あるも、コンストラクション部品サービスのCOVID-19影響による減収及び予想為替レートの円高影響により、合計では前年比5%減収を見込む

(注) (○) は全社売上収益に占める比率
[%] は前年比 伸び率

(単位：億円)



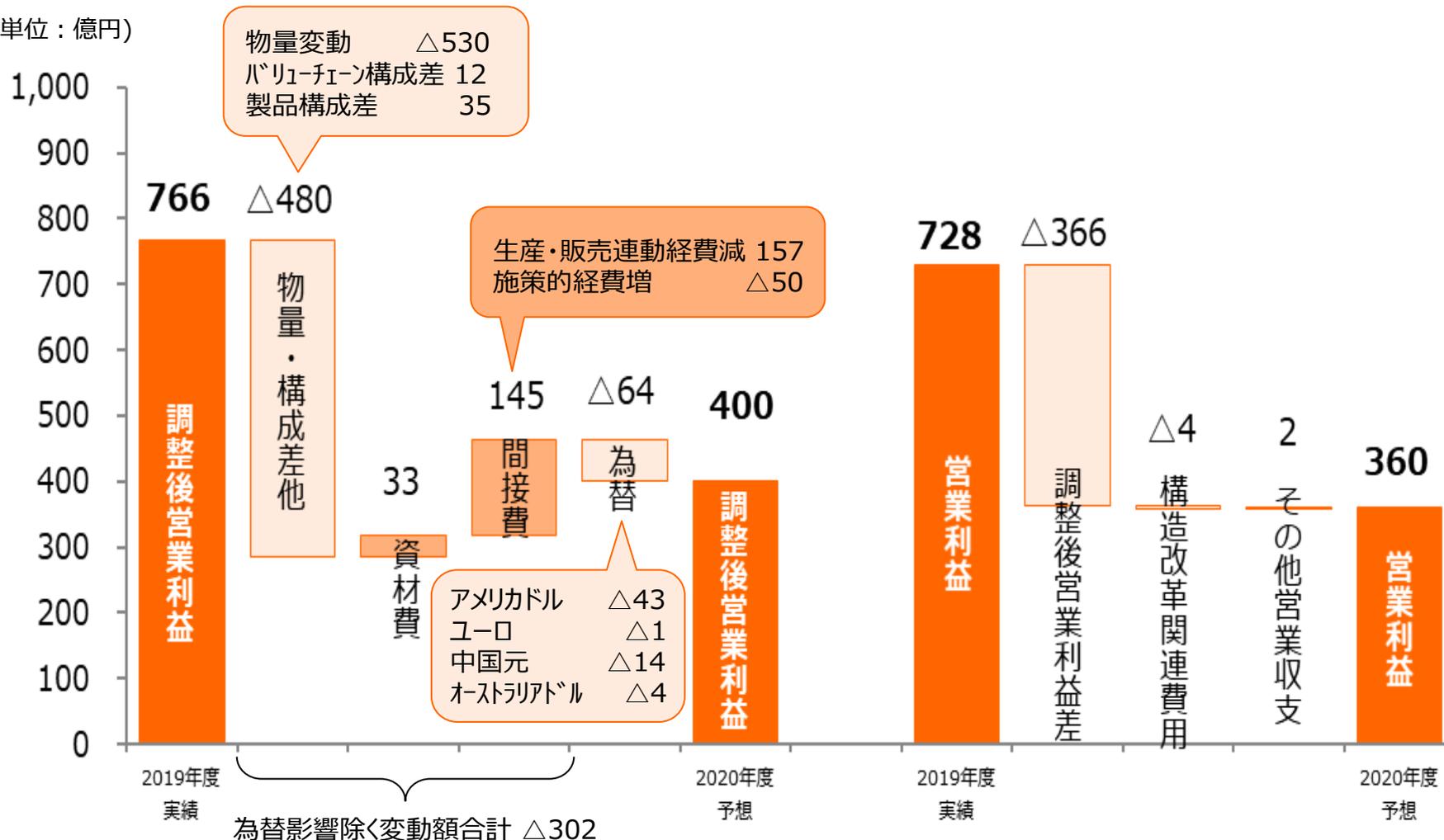
(* 1) バリューチェーン：新車販売以外の事業である部品・サービス、ソリューションビジネス、レンタル等の事業合計

(* 2) ソリューションビジネス：建設機械ビジネスセグメントに含まれないマイニング設備及び機械のアフターセールスにおける部品開発、製造、販売及びサービスソリューションの提供

連結損益変動要因（予想）

20年度の調整後営業利益は、COVID-19影響による物量減や予想為替レートの円高影響により、間接費低減や資材費低減はあるも、前年比△366億円の減益を見込む

(単位：億円)



20年度予想為替レートは、通貨毎に予想変動レンジ内で合理的に設定

為替レート及び為替感応度

(単位：億円)

| 通貨 | 為替レート | | 感応度(1Q-4Q) | | |
|-----------|------------|------------|--------------|------|-------------|
| | 20年度 予想 | 19年度 実績 | 基準 | 売上収益 | 調整後 営業利益 |
| アメリカドル | 105.0 | 108.7 | 1円円安になった場合 | 17 | 12 |
| ユーロ | 120.0 | 120.8 | 1円円安になった場合 | 5 | 4 |
| 中国元 | 15.0 | 15.7 | 0.1円円安になった場合 | 5 | 2 |
| オーストラリアドル | 72.0 | 74.1 | 1円円安になった場合 | 19 | 2 |

参考資料 2 : マイニング売上収益内訳

(単位：億円)

| | | 18年度 実績(A) | 19年度 実績(B) | 前年比 (B)-(A) |
|---------|------|---------------|---------------|----------------|
| 米州 | ショベル | 146 | 182 | 37 |
| | トラック | 70 | 39 | △ 32 |
| | 計 | 216 | 221 | 5 |
| 欧阿中東 | ショベル | 248 | 230 | △ 18 |
| | トラック | 170 | 129 | △ 41 |
| | 計 | 418 | 359 | △ 59 |
| アジア・大洋州 | ショベル | 638 | 734 | 96 |
| | トラック | 315 | 329 | 14 |
| | 計 | 953 | 1,063 | 111 |
| 中国 | ショベル | 10 | 6 | △ 3 |
| | トラック | 1 | 1 | 0 |
| | 計 | 11 | 8 | △ 3 |
| 日本 | ショベル | 10 | 17 | 7 |
| | トラック | 0 | 0 | △ 0 |
| | 計 | 10 | 17 | 6 |
| 合計 | ショベル | 1,051 | 1,169 | 119 |
| | トラック | 557 | 498 | △ 59 |
| | 計 | 1,608 | 1,668 | 60 |

下記ソリューションビジネスの調整後営業利益は、P P A (資産再評価)償却費が含まれております。
19年度累計実績10億円、20年度予想は13億円が含まれております。

(単位：億円)

| 19年度 実績 | 報告セグメント | | 調整額 *1 | 連結財務諸表 計上額 |
|------------|--------------|-----------------|-----------|---------------|
| | 建設機械 ビジネス | ソリューション ビジネス | | |
| 売上収益 | 8,408 | 920 | △ 14 | 9,313 |
| 調整後営業利益 | 8.2% 685 | 8.8% 81 | - | 8.2% 766 |

(単位：億円)

| 20年度 予想 | 報告セグメント | | 調整額 *1 | 連結財務諸表 計上額 |
|------------|--------------|-----------------|-----------|---------------|
| | 建設機械 ビジネス | ソリューション ビジネス | | |
| 売上収益 | 6,940 | 760 | - | 7,700 |
| 調整後営業利益 | 5.1% 354 | 6.1% 46 | - | 5.2% 400 |

*1 [調整額]は、セグメント間取引消去額、及び事業セグメントに帰属しない全社に係る金額です。

20年度設備投資は、国内外工場の再編やレンタル事業の拡充などに特化

1.設備投資 (工事ベース) (単位:億円)

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|---------|------|------|------|------|-------|
| | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 予想 |
| 設備投資 | 141 | 187 | 304 | 472 | 649 |
| 賃貸用営業資産 | 165 | 231 | 272 | 369 | 431 |
| 合計 | 352 | 307 | 576 | 841 | 1,080 |

2.減価償却費 (有形・無形固定資産) (単位:億円)

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|---------|------|------|------|------|------|
| | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 予想 |
| 設備投資 | 224 | 275 | 268 | 342 | 339 |
| 賃貸用営業資産 | 115 | 103 | 101 | 120 | 156 |
| 合計 | 354 | 340 | 370 | 461 | 495 |

3.研究開発費 (単位:億円)

| | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|--------|------|------|------|------|------|
| | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 予想 |
| グループ合計 | 193 | 246 | 248 | 237 | 218 |

中期経営戦略の方向性について

2020～2022年度

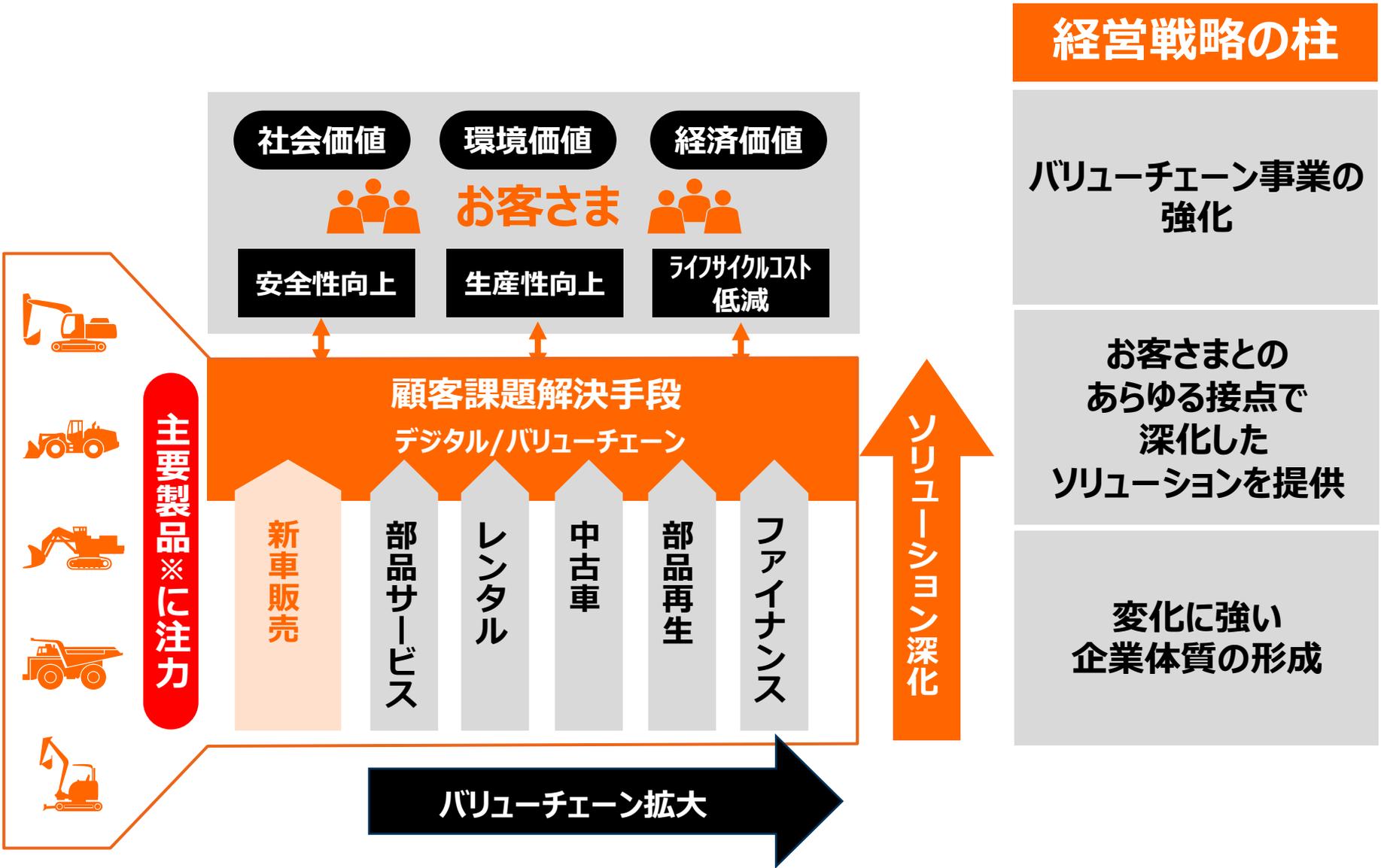
執行役 社長 兼CEO
平野 耕太郎

COVID-19による変化

- 不透明感から、保有、レンタル、中古車等、顧客は多様な選択肢を指向
- 建設現場の「三密(密閉・密集・密接)」回避のための働き方の変化、リモートへのニーズの高まり・加速化
- 不透明な収束時期や経営悪化への不安から、建設・鉱山現場の安全性向上・生産性向上・ライフサイクルコスト低減に対するニーズがさらに高まる

当社の取り組み

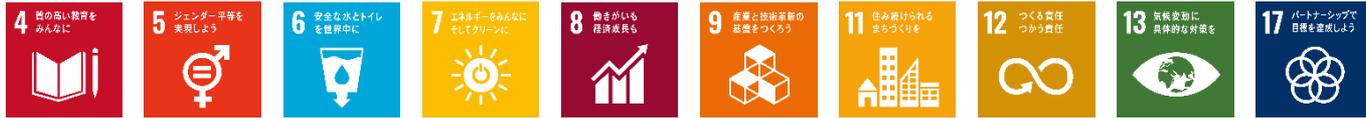
- 稼働状況を把握可能な最新機械に加え、レンタル・中古車など選択肢の拡充推進
- 建設現場の三密回避し、リモートニーズに応えるICT建機、遠隔操作建機の開発・提供の加速推進
- 部品・サービスメニュー(ConSite®)拡充、部品再生事業の拡大を通じ、建設現場のマシンドウンを回避し、稼働率を向上。マイニング事業において、AHSやデジタル技術を組み合わせ高度化を推進



※その他製品群：バックホーローダ、クローラークレーン、ブルドーザ、スキッドステアローダ

企業ビジョン

「豊かな大地，豊かな街を未来へ…」



2030年の社会価値

世界中のインフラ整備に、ソリューションを通じ
安全性・生産性・ライフサイクルコスト低減を提供

安全性向上

転倒・接触死亡事故
「ゼロ」への貢献

生産性向上

自動化・省力化建機
の標準化をめざして

ライフサイクルコスト低減

ダウンタイム
「ゼロ」をめざして

2030年の環境価値

世界中のインフラ整備を通じ
地球温暖化防止を支援

地球温暖化の防止

製品ライフサイクルのCO2削減
製品-33%・生産-45%をめざして

2022年の経営目標（社会価値）

安全性向上

接触防止技術の実現
人と機械の
協調制御を実用化

生産性向上

ICT建機の普及
2800台※

※対象現場 5千現場以上

ライフサイクルコスト低減

稼働状況管理システムの
普及率90%

対象台数 20万台

（環境価値）

地球温暖化の防止

CO2の排出の削減
製品CO2 -20%
生産CO2 -25%

対象台数 50万台

日立建機グループでは、持続可能な開発目標 (SDGs) の17の目標のうち、10項目の重点目標を設定しています。

当資料内のトピックスはこの区分に該当するアイコンを表記し、紹介しています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあり得ます。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

END**お問い合わせ**** 日立建機株式会社****ブランド・コミュニケーション本部**